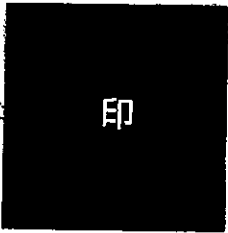


近畿厚生局長 殿

大阪大学医学部附属病院長
福澤 正



大阪大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	135人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

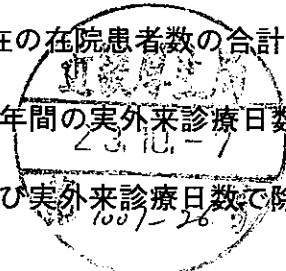
職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	425人	454人	730.1人	看護補助者	47人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	15人	17.0人	理学療法士	9人	臨床検査技師	79人
薬剤師	52人	11人	60.3人	作業療法士	3人	臨床衛生検査技師	4人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	16人	その他	0人
助産師	34人	0人	34.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧	0人
看護師	837人	21人	851.3人	臨床工学技士	16人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	2人	1人	2.8人	栄養士	0人	その他の技術員	8人
歯科衛生士	0人	2人	1.5人	歯科技工士	0人	事務職員	208人
管理栄養士	6人	0人	6.0人	診療放射線技師	53人	その他の職員	49人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	880.8人	0.0人	880.8人
1日当たり平均外来患者数	2,516.0人	8.1人	2,524.1人
1日当たり平均調剤数	入院 1207.17 外来 91.7		1,298.90 剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	特になし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	189人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	73人	・広範脊柱管狭窄症	10人
・重症筋無力症	190人	・原発性胆汁性肝硬変	57人
・全身性エリテマトーデス	430人	・重症急性膵炎	6人
・スモン	10人	・特発性大腿骨頭壊死症	71人
・再生不良性貧血	84人	・混合性結合組織病	87人
・サルコイドーシス	89人	・原発性免疫不全症候群	17人
・筋萎縮性側索硬化症	44人	・特発性間質性肺炎	23人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	291人	・網膜色素変性症	87人
・特発性血小板減少性紫斑病	132人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	32人	・肺動脈性肺高血圧症	30人
・潰瘍性大腸炎	116人	・神経線維腫症	44人
・大動脈炎症候群	84人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ピュルガー病	38人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・天疱瘡	44人	・慢性血栓性肺高血圧症	9人
・脊髄小脳変性症	61人	・ライソゾーム病	45人
・クローン病	118人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	7人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	19人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	159人	・球脊髄性筋萎縮症	7人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6人
・後縦靭帯骨化症	77人	・肥大型心筋症	19人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	28人	・ミトコンドリア病	6人
・ウェグナー肉芽腫症	10人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	15人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	160人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	4人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	27人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	30人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	116人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・画像支援ナビゲーション手術	・
・生体部分肺移植術	・
・抗がん剤感受性試験	・
・超音波骨折治療法	・
・腹腔鏡下肝部分切除術	・
膀胱水圧拡張術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

注「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	520回/年
部 検 の 状 況	部検症例数 42 例 / 部検率 11.60%

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
インスリン様効果を有する新規内分泌因子ピスファチンの発現、分泌、活性化機構の解明	大津 欣也	循環器内科	3,300,000	補 文部科学省
再生軸索のシナプス形成機序の解明	朝野 仁裕	循環器内科	403,650,000	補 文部科学省
脂肪および血管内皮細胞由来新規内分泌因子に関する研究	小室 一成	循環器内科	49,920,000	補 日本学術振興会
麻酔薬の神経保護メカニズム：MAPキナーゼとカルシウム動態からの解明	塩島 一郎	循環器内科	5,330,000	補 日本学術振興会
揮発性全身麻酔薬の副作用の分子機構：モーター蛋白1分子レベルでの解明	赤澤 宏	循環器内科	3,640,000	補 日本学術振興会
p53遺伝子変異を指標とした頭頸部進行癌に対するテーラーメイド治療の確立	高島 成二	循環器内科	4,810,000	補 日本学術振興会
小児人工内耳症例における中枢聴覚系の他覚的機能評価法の確立	山下 静也	循環器内科	5,330,000	補 日本学術振興会
長時間作用型核酸医薬（リボン型デコイ）の開発と有効性の検討	大津 欣也	循環器内科	5,980,000	補 日本学術振興会
新素材を足場骨格に応用した小児の気管・気管支再生に関する研究	岡 亨	循環器内科	1,300,000	補 日本学術振興会
精巢幹細胞の維持機構とsmall RNA	李 鍾國	循環器内科	910,000	補 日本学術振興会
ヘルペスウイルスのコードする蛋白キナーゼの核輸送や活性を阻害する化合物の開発	山口 修	循環器内科	1,300,000	補 日本学術振興会
アルツハイマー病と軽度認知障害のアミロイドメーキング	坂田 泰史	循環器内科	1,170,000	補 日本学術振興会
接着分子インテグリン伝達経路を標的とした放射線治療効果増強のための基礎的検討	中岡 良和	循環器内科	1,950,000	補 日本学術振興会
医療事故における法医学的検証システムの研究	坂田 泰彦	循環器内科	2,470,000	補 日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
中性脂肪蓄積心筋血管症の発見—その疾患概念の確立、診断法、治療法の開発	平野賢一	循環器内科	19,500,000	補	厚生労働省
心筋細胞死誘導による心不全発症の新規モデルマウスの開発	赤澤宏	循環器内科	8,500,000	補	厚生労働省
末梢血単核球移植による血管再生治療と次世代の再生治療を目指した基盤研究	小室一成	循環器内科	54,545,000	補	厚生労働省
新規拡張型心筋症モデルマウスを用いた拡張型心筋症発症機序の解明	小室一成	循環器内科	45,813,000	補	厚生労働省
臓器特性を利用した心血管疾患治療標的の探索と臨床応用	高島 成二	循環器内科	14,450,000	補	文部科学省
症例選択基準の選定・最適化にむけたデータ評価に関する研究	山下 静也	循環器内科	10,000,000	委	(独) 医薬基盤研究所
基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発/橋渡し促進技術開発/細胞シートによる多施設臨床研究を目指した基盤システムの構築	小室 一成	循環器内科	6,624,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
次世代機能代替技術の研究開発/次世代再生医療技術の研究開発/生体内で自己組織の再生を促すセルフリー型再生デバイスの開発 (幹細胞ニッチ制御による自己組織再生型心血管デバイスの基盤開発)	小室 一成	循環器内科	17,365,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発/橋渡し促進技術開発/細胞シートによる多施設臨床研究を目指した基盤システムの構築	小室 一成	循環器内科	576,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
次世代機能代替技術の研究開発/次世代再生医療技術の研究開発/生体内で自己組織の再生を促すセルフリー型再生デバイスの開発 (幹細胞ニッチ制御による自己組織再生型心血管デバイスの基盤開発)	小室 一成	循環器内科	1,510,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
心不全発症予防を目指した新規サイトカイン療法の確立	中岡 良和	循環器内科	4,000,000	委	(財) 千里ライフサイエンス振興財団
医歯医学分野に関する学術動向の調査研究	小室 一成	循環器内科	2,600,000	委	(独) 日本学術振興会
(若手B) カルシウムを中心とした心不全発症の分子機構の解明と治療への応用	武田 理宏	循環器内科	2,080,000	補	文部科学省
TregとTh17の制御による肺移植後の拒絶反応に対する新たな治療戦略の開発	岩谷 博次	腎臓内科	2,210,000	補	文部科学省
核小体低分子RNAを用いた神経因性疼痛治療薬の開発	猪阪 善隆	腎臓内科	910,000	補	日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ポリタングステン酸のLGI C受容体に対する相互作用	貝森 淳哉	腎臓内科	1,430,000	補 日本学術振興会
敗血症下のマウス粘膜免疫応答の解析、遺伝子治療の導入	高島 義嗣	腎臓内科	1,170,000	補 日本学術振興会
非アルコール性脂肪性肝疾患と肝硬変におけるオートファジーの解析とその意義の解明	長澤 康行	腎臓内科	2,080,000	補 日本学術振興会
PET/MRI一体型装置の概念設計とソフトウェアの開発	松井 功	腎臓内科	1,700,000	補 日本学術振興会
(若手B)慢性糸球体腎炎から慢性腎不全への進展リスクファクター遺伝子群の同定とその応用	山本 陵平	腎臓内科	910,000	補 文部科学省
関節障害の病態解明と薬物治療効果判定のための機能的イメージングの開発	竹原 徹郎	消化器内科	5,850,000	補 日本学術振興会
視神経乳頭電気刺激による視機能再生の検討	吉田 雄一	消化器内科	650,000	補 日本学術振興会
未熟児網膜症の病態研究とその治療薬剤の検討	平松 直樹	消化器内科	780,000	補 日本学術振興会
神経細胞における内向き整流性カリウムチャネルの位置制御機構の解明	渡部 健二	消化器内科	1,430,000	補 日本学術振興会
上皮細胞における細胞増殖とシグナル伝達の解明	辻井 正彦	消化器内科	1,170,000	補 日本学術振興会
Nepmucinによる白血球動員および免疫反応制御機構の解明	巽 智秀	消化器内科	1,430,000	補 日本学術振興会
肺高血圧の病態におけるAngiopoietin-1/Tie2シグナルの役割解明	宮城 琢也	消化器内科	1,430,000	補 日本学術振興会
脾特異的遺伝子発現制御マウスを用いた脾再生メカニズムの解析	石田 永	消化器内科	1,430,000	補 日本学術振興会
福山型先天性筋ジストロフィーの発症分子機構解明と創薬への応用	木曾 真一	消化器内科	910,000	補 日本学術振興会
皮膚疾患および病態における核移行シグナルの役割	法水 淳	消化器内科	1,690,000	補 日本学術振興会

小計

15

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
炎症性疾患の治療を目指したポリロピキチン鎖生成の高感度リアルタイム検出法の開発	考藤 達哉	消化器内科	2,080,000	補 日本学術振興会
細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成	竹原 徹郎	消化器内科	1,000,000	補 日本学術振興会
C型肝炎難治症例の病態解明と抗ウイルス治療に関する研究	竹原徹郎	消化器内科	47,502,000	補 厚生労働省
ナノ粒子-癌抗原ペプチドを用いた肝癌・消化器癌免疫治療法の開発	巽 智秀	消化器内科	3,640,000	委 (独) 科学技術振興機構
マウス精子形成過程におけるpiRNAとPIWIファミリーの機能	船橋 徹	内分泌・代謝内科	23,010,000	補 文部科学省
神経再生が及ぼす皮膚創傷治癒への影響	松岡 孝昭	内分泌・代謝内科	1,040,000	補 日本学術振興会
がん細胞の動態を制御する間質因子	金藤 秀明	内分泌・代謝内科	1,040,000	補 日本学術振興会
乳がんの個性診断と分子病態解明	岸田 堅	内分泌・代謝内科	1,430,000	補 日本学術振興会
白血病細胞のシグナルと分子標的治療	福原 淳範	内分泌・代謝内科	910,000	補 日本学術振興会
アルツハイマー病の関連遺伝子探索研究	今川 彰久	内分泌・代謝内科	1,430,000	補 日本学術振興会
STIMを中心とした細胞内カルシウム調節機構とサイトカインシグナル	前田 法一	内分泌・代謝内科	1,950,000	補 日本学術振興会
脳梗塞ハイリスク例における経口糖尿病薬の脳血管イベント一次予防効果の検討 (略称: PROFIT-J研究)	金藤 秀明	内分泌・代謝内科	105,000	委 (財) 循環器病研究振興財団
(基盤C) 酸化ストレス関連遺伝子多型の集積が糖尿病大血管症の発症・進展に及ぼす影響の検討	片上 直人	内分泌・代謝内科	2,210,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
皮膚再生機構の解明-毛包細胞内シグナル伝達機構の解析-	立花 功	呼吸器内科	1,300,000	補 日本学術振興会
骨リモデリングと破骨細胞形成における骨形成因子の機能の解析	武田 吉人	呼吸器内科	1,430,000	補 日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
造血系幹細胞の骨分化能の検討と再生医療への応用	木島 貴志	呼吸器内科	1,300,000	補 日本学術振興会
胸部悪性腫瘍に対するWT-1ペプチドワクチン療法	武田 吉人	呼吸器内科	500,000	委 (独) 国立がん研究センター
(基盤C) 血管新生とリンパ管新生におけるテトラスパニンの機能解析	高橋 良	呼吸器内科	1,300,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
軟骨細胞シグナリングとマトリックス転写制御による軟骨形成・分化の解明	西田 純幸	免疫・アレルギー内科	1,300,000	補 文部科学省
移植免疫寛容におけるmiRNAの探索およびRNAi医薬を用いた免疫制御法の開発	岡 芳弘	免疫・アレルギー内科	1,300,000	補 日本学術振興会
WT1ペプチドを用いた癌免疫治療法の構築とその改良に関する研究	岡 芳弘	免疫・アレルギー内科	1,400,000	委 (独) 国立がん研究センター
虚血脳における側副血行路発達促進手段の開発	金倉 譲	血液・腫瘍内科	7,020,000	補 日本学術振興会
食道癌の診療向上のための分子遺伝学および分子疫学的研究	西村 純一	血液・腫瘍内科	1,300,000	補 日本学術振興会
メダカ逆遺伝学的手法を基盤とした個体・組織レベルでの損傷応答解析系の確立	柏木 浩和	血液・腫瘍内科	1,300,000	補 日本学術振興会
大脳新皮質の神経前駆細胞におけるG蛋白質シグナリングの役割	田所 誠司	血液・腫瘍内科	1,040,000	補 日本学術振興会
尿意に対する中枢神経機構の解析	佐藤 友亮	血液・腫瘍内科	1,300,000	補 日本学術振興会
パーキンソン病関連遺伝子探索と機能解析	横田 貴史	血液・腫瘍内科	1,430,000	補 日本学術振興会
DNAマイクロアレイによる幹細胞融合による消化管発癌の可能性の検討	柴山 浩彦	血液・腫瘍内科	1,950,000	補 日本学術振興会
自己組織化による組織完全再生を目指した成長する新規素材人工血管の開発	前田 哲生	血液・腫瘍内科	1,690,000	補 日本学術振興会
遺伝子導入及び蛋白導入を併用するハイブリッド型心筋保護法の開発	織谷 健司	血液・腫瘍内科	1,690,000	補 日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
抑肝散の示す精神疾患周辺行動改善に対する科学的検証	坪井 昭博	血液・腫瘍内科	1,560,000	補 日本学術振興会
生体侵襲軽微な人工的ヒトインターフェロンの開発	金倉 毅	血液・腫瘍内科	15,000,000	委 (財)千里ライフサイエンス振興財団
血液・腫瘍内科学分野に関する学術動向の調査研究	金倉 毅	血液・腫瘍内科	7,000,000	委 (独)日本学術振興会
(基盤C) AML1点突然変異体による骨髄異形成症候群発症の病態解析	佐藤 友亮	血液・腫瘍内科	489,036	補 独立行政法人日本学術振興会
(若手B) RNAアプタマーを用いた白血病細胞特異的ドラッグデリバリーシステムの開発	植田 康敬	血液・腫瘍内科	1,170,000	補 文部科学省
(若手B) CBF白血病におけるKIT遺伝子変異付加による予後増悪分子機構の解析	福島 健太郎	血液・腫瘍内科	1,040,000	補 文部科学省
チェルノブイリ放射能汚染シミュレーションによる継世代的遺伝毒性と発癌のリスク推定	樂木 宏実	老年・高血圧内科	5,200,000	補 日本学術振興会
血管新生とリンパ管新生におけるテラスパニンの機能解析	森下 竜一	老年・高血圧内科	6,110,000	補 日本学術振興会
DNAマイクロアレイによる内耳病態の解明ーヒト内リンパ嚢遺伝子の動態解析	里 直行	老年・高血圧内科	1,560,000	補 日本学術振興会
新規膜電位プローブの、細胞内局所ターゲット	神出 計	老年・高血圧内科	1,950,000	補 日本学術振興会
爪分析を用いた生活習慣病の定量評価技術の確立	杉本 研	老年・高血圧内科	1,950,000	補 日本学術振興会
救急部門と周産期部門との連携強化に資する具体的手法に関する研究	森下 竜一	老年・高血圧内科	900,000	補 日本学術振興会
血中ベータ・アミロイド測定最適化に注目したアルツハイマー病診断法の開発	里 直行	老年・高血圧内科	6,400,000	委 (独)科学技術振興機構
リポ蛋白を標的とした新規siRNA薬の開発	森下 竜一	老年・高血圧内科	1,300,000	委 (独)科学技術振興機構
転移促進因子抑制による癌転移抑制療法の開発	森下 竜一	老年・高血圧内科	4,000,000	委 (独)科学技術振興機構

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
植物の再生機構由来の機能性ペプチドを利用した医療用品の開発	森下 竜一	老年・高血圧内科	7,841,400	委 経済産業省
核酸含有PLGAナノ粒子技術を用いた経口DDS製剤の研究開発	森下 竜一	老年・高血圧内科	17,000,550	委 経済産業省
骨格筋芽細胞移植により誘導される心筋再生因子の同定と治療応用に関する実験的研究	有光 潤介	漢方医学科	650,000	補 文部科学省
中枢神経の新規ストレス蛋白リポカリン型プロスタグランジンD合成酵素の機能解明	澤 芳樹	心臓血管外科	18,200,000	補 日本学術振興会
発作性夜間血色素尿症に対するRNAアプタマーを用いた分子標的療法の開発	福嶋 教偉	心臓血管外科	7,020,000	補 日本学術振興会
新規血小板機能抑制分子セマフォリン3Aの抑制機構および抗血栓作用に関する検討	宮川 繁	心臓血管外科	8,970,000	補 日本学術振興会
炎症/発癌の地下形成における上皮細胞間バリアー機能不全	島村 和男	心臓血管外科	910,000	補 日本学術振興会
ATP駆動蛋白質の化学力学変換機構の1分子解析	金 啓和	心臓血管外科	1,300,000	補 日本学術振興会
鉄および鉄補欠分子族の動態調節とその破綻による病態の解明	澤 芳樹	心臓血管外科	2,100,000	補 日本学術振興会
大腸癌の発生、進展および治療感受性に関わる因子の解析	上野 高義	心臓血管外科	1,600,000	補 日本学術振興会
重症拡張型心筋症へのbridge-to-transplantation/recoveryを目指した新規治療法の開発と実践	澤芳樹	心臓血管外科	560,000,000	補 厚生労働省
脳死並びに心停止ドナーにおけるマージナルドナーの有効利用に関する研究	福嶋教偉	心臓血管外科	11,316,000	補 厚生労働省
再生医療における新しい細胞マトリックス作成技術の開発	澤 芳樹	心臓血管外科	4,900,000	委 (独) 科学技術振興機構
京都大学iPS細胞研究統合推進拠点	澤 芳樹	心臓血管外科	39,000,000	委 文部科学省
基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発/橋渡し促進技術開発/細胞シートによる多施設臨床研究を目指した基盤システムの構築	澤 芳樹	心臓血管外科	11,500,000	委 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
次世代機能代替技術の研究開発/次世代再生医療技術の研究開発/生体内で自己組織の再生を促すセルフリー型再生デバイスの開発(幹細胞ニッチ制御による自己組織再生型心血管デバイスの基盤開発)	澤 芳樹	心臓血管外科	62,407,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発/橋渡し促進技術開発/細胞シートによる多施設臨床研究を目指した基盤システムの構築	澤 芳樹	心臓血管外科	1,000,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
次世代機能代替技術の研究開発/次世代再生医療技術の研究開発/生体内で自己組織の再生を促すセルフリー型再生デバイスの開発(幹細胞ニッチ制御による自己組織再生型心血管デバイスの基盤開発)	澤 芳樹	心臓血管外科	2,818,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
遺伝子・細胞・組織工学の国際的技術を集結させた心筋組織の構築と心不全治療への応用	澤 芳樹	心臓血管外科	17,017,000	委	(独)日本学術振興会
副作用の少ない人工的インターフェロンの開発	中桐 伴行	呼吸器外科	780,000	補	文部科学省
加齢黄斑変性の病態解明—視細胞における脂質酸化とマクロファージの役割	奥村 明之進	呼吸器外科	3,380,000	補	日本学術振興会
悪性リンパ腫の穿刺吸引核酸診断法の臨床検討	澤端 章好	呼吸器外科	4,290,000	補	日本学術振興会
大腸上皮幹細胞の加齢による変化と発癌への関与	井上 匡美	呼吸器外科	650,000	補	日本学術振興会
意欲と学習に対する環境・遺伝因子の影響とそのメカニズムの解明	新谷 康	呼吸器外科	1,599,000	補	日本学術振興会
臓器がん登録への情報提供機能の構築・情報発信方法の検討(肺癌)	奥村 明之進	呼吸器外科	500,000	委	(独)国立がん研究センター
(若手B)肺移植の拒絶反応抑制のためのサイトカイン受容体に対する分子標的療法の開発	中桐 伴行	呼吸器外科	37,154	補	文部科学省
時間特性を考慮した人工網膜のための最適刺激の研究	小林 省吾	消化器外科	2,470,000	補	文部科学省
抗アポトーシス分子アナモルシンの作用機序と悪性リンパ腫における役割の解明	森 正樹	消化器外科	43,680,000	補	日本学術振興会
強度近視眼における限内線維増殖および網膜剥離の研究	土岐 祐一郎	消化器外科	6,110,000	補	日本学術振興会
ゼブラフィッシュを用いたレチナルファシン遺伝子異常による網膜色素変性の病態解明	竹政 伊知朗	消化器外科	6,110,000	補	日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
敗血症進展における肝細胞増殖因子による生体防御機構とその分子基盤解析	山本 浩文	消化器外科	5,460,000	補 日本学術振興会
高感度TSHレセプター抗体測定法を用いたバセドウ病発症メカニズムの解明	永野 浩昭	消化器外科	4,680,000	補 日本学術振興会
実験・計算科学を駆使した内耳内リンパ液における高電位・高カリウムの成立機構の解明	伊藤 壽記	消化器外科	910,000	補 日本学術振興会
リンカーヒストンによる細胞未分化性の基盤を成すクロマチンダイナミクス制御	丸橋 繁	消化器外科	1,430,000	補 日本学術振興会
細胞内寄生性原虫の感染防御機構	宮田 博志	消化器外科	1,430,000	補 日本学術振興会
自然免疫系の自己識別における役割	中島 清一	消化器外科	1,040,000	補 日本学術振興会
慢性移植腎症におけるオートファジーの関与の解明	水島 恒和	消化器外科	1,820,000	補 日本学術振興会
生体内分解性高分子微粒子を用いた子宮局所におけるドラッグデリバリーシステムの開発	江口 英利	消化器外科	1,690,000	補 日本学術振興会
ラマン散乱分光を用いた網膜代謝画像解析	種村 匡弘	消化器外科	1,950,000	補 日本学術振興会
オルガネラネットワーク医学創成プログラム	土岐 祐一郎	消化器外科	1,500,000	補 日本学術振興会
医・工・情報学融合による予測医学基盤創成	関本 貢嗣	消化器外科	900,000	補 日本学術振興会
医科学修士の健康医療問題解決能力の涵養	山本 浩文	消化器外科	1,400,000	補 日本学術振興会
胃癌および大腸癌の骨髄・末梢血・リンパ節中における移転形成能を有する遊離癌細胞 (Isolated Tumor Cell, ITC) の検出とその臨床応用	永野 浩昭	消化器外科	1,400,000	補 日本学術振興会
リプログラミング技術による消化器癌の新しい診断・治療	森正樹	消化器外科	17,868,000	補 厚生労働省
アカデミアのTR拠点が創出する膵島移植確立のための戦略的アプローチ②新規免疫抑制療法を併用する臨床膵島移植の開発	伊藤 壽記	消化器外科	1,236,508	委 文部科学省

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
癌特異的抗原受容体改変T細胞の輸注とがんワクチンによる複合的がん免疫療法の研究開発	土岐 祐一郎	消化器外科	1,125,300	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
プラスチック成形加工技術の高度化による安全、高機能な次世代内視鏡治療関連医療機器の研究開発	中島 清一	消化器外科	6,327,300	委	近畿経済産業局
次世代超低侵襲内視鏡治療の実現へ向けた高性能医療機器の開発	中島 清一	消化器外科	18,312,000	委	近畿経済産業局
ゲノム網羅的解析情報を基盤とするオーダーメイドがん医療	森 正樹	消化器外科	4,000,000	委	文部科学省
がん患者の補完代替医療に関する臨床試験	伊藤 壽記	消化器外科	1,300,000	委	(独) 国立がん研究センター
手術創の軽減に寄与する機器および手術手技の開発に関する研究	竹政 伊知朗	消化器外科	1,300,000	委	(独) 国立がん研究センター
術後補助化学療法におけるフッ化ピリミジン系薬剤の有用性に関する比較臨床試験 (治療切除直腸癌に対するUFT療法とTS-1療法との比較検討)	池田 正孝	消化器外科	13,650	委	(財) がん集学的治療研究財団
(基盤C) 肺癌における内分泌系転写因子の発現意義と癌幹細胞との関係	和田 浩志	消化器外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
(挑戦的萌芽) 消化器外科領域における自己生体素材を用いた再生医療の開発	高橋 秀和	消化器外科	1,500,000	補	独立行政法人日本学術振興会
(挑戦的萌芽) 腫瘍組織内NY-ESO-1特異的制御性T細胞株の樹立とその解析	川田 純司	消化器外科	1,500,000	補	独立行政法人日本学術振興会
(若手A) マイクロRNAによる多能性幹細胞の作製と臨床応用に向けた開発研究	星野 宏光	消化器外科	13,260,000	補	文部科学省
(若手B) マイクロRNAによる消化器癌の未分化性獲得と新規分化誘導療法の開発研究	富丸 慶人	消化器外科	650,000	補	文部科学省
(若手B) iPS化ADSCを用いた微小環境の再生・再構築による次世代型肝臓移植法の研究開発	大村 仁昭	消化器外科	2,210,000	補	文部科学省
(若手B) 肝臓幹細胞を標的とした根治的療法の開発	島野 尚典	消化器外科	2,080,000	補	文部科学省
(若手B) 消化器癌の抗癌剤耐性を制御するmicroRNAの同定と機能解析	友園 晃	消化器外科	3,380,000	補	文部科学省

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
(若手B)食道癌化学療法における癌幹細胞を標的とした新規バイオマーカーの探索	原 譲次	消化器外科	1,690,000	補 文部科学省
航空宇宙用複合材料による超長寿命型人工股関節の実用性検証	中山 貴寛	乳腺・内分泌外科	1,300,000	補 日本学術振興会
乳がんにおけるタキサン系およびアンスラサイクリン系抗がん剤耐性遺伝子の同定と耐性の克服に関する研究	野口 眞三郎	乳腺・内分泌外科	25,000,000	委 (財)千里ライフサイエンス振興財団
アミノ酸細胞膜トランスポートを標的とした小児固形腫瘍に対する治療法の開発	大植 孝治	小児外科	2,860,000	補 日本学術振興会
糖鎖異常を伴う先天性筋ジストロフィーの発症機序の理解と治療戦略	上野 兼久	小児外科	1,300,000	補 日本学術振興会
脊髄損傷後の神経因性疼痛における活性酸素の役割解明	臼井 規朗	小児外科	910,000	補 日本学術振興会
骨格筋筋芽細胞シート移植術併用による単心室症の2心室修復術の開発	和佐 勝史	小児外科	2,340,000	補 日本学術振興会
ゲノム解析によるパーキンソン病遺伝子同定と創薬・テーラーメイド研究	神山 雅史	小児外科	2,080,000	補 日本学術振興会
(基盤C)ケモカイン及びそのレセプターを標的とする抗体療法及び遺伝子療法の開発	上野 兼久	小児外科	472,462	補 独立行政法人日本学術振興会
(若手B)Wilms腫瘍に対するWT1遺伝子のサイレンシングによる分化誘導療法の開発	高間 勇一	小児外科	650,000	補 文部科学省
(若手B)細胞膜シートと回転培養法を応用した足場を必要としない気管軟骨再生法の開発	谷 岳人	小児外科	1,560,000	補 文部科学省
(若手B)小児悪性腫瘍に対するヘッジホグシグナル系阻害剤を用いた分子標的治療に関する研究	野村 元成	小児外科	2,080,000	補 文部科学省
疾病予防対策事業費等補助金(感染症対策特別促進事業)	福澤 正洋	小児外科	2,393,000	補 厚生労働省
感染症予防事業費等補助金(がん診療連携拠点病院機能強化事業)	福澤 正洋	小児外科	18,279,000	補 厚生労働省
大学改革推進等補助金/大学病院業務改善推進事業	福澤 正洋	小児外科	77,500,000	補 厚生労働省

小計

15

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
医療施設等設備整備費補助金/医療施設等設備整備費助成金	福澤 正洋	小児外科	2,244,000	補 厚生労働省
骨細胞特異的蛋白の血中濃度測定による経済的かつ簡便な骨強度評価法の新規開発	三木 篤也	眼科	520,000	補 文部科学省
ブドウ球菌エンテロトキシンによる嘔吐機構の病態生理学的解析	中井 慶	眼科	1,040,000	補 文部科学省
患者検体結果を用いた新規の精度管理法の開発と汎用化に向けた研究	森本 壮	眼科	1,040,000	補 文部科学省
循環器疾患発症に関与する心理因子と炎症・代謝異常・自律神経機能についての疫学研究	高 静花	眼科	1,820,000	補 文部科学省
メチオニンPETによるアルツハイマー病患者の神経細胞障害の同定	不二門 尚	眼科	20,670,000	補 日本学術振興会
脳由来神経成長因子および麻酔薬の直接可視化	坂口 裕和	眼科	1,300,000	補 日本学術振興会
血液細胞の分化多能性・自己複製能を制御するデコード回路の解明	辻川 元一	眼科	1,430,000	補 日本学術振興会
細胞接着関連因子による上皮細胞間バリアーの形成とバリアー内イオンチャネル形成機構	大島 佑介	眼科	1,300,000	補 日本学術振興会
細胞膜安定性維持システムの破綻によるトランスポートソーム異常と病態	瓶井 資弘	眼科	1,170,000	補 日本学術振興会
樹状細胞主導の消化管粘膜バリアー維持機構	前田 直之	眼科	1,170,000	補 日本学術振興会
HCV感染における宿主応答の分子機構の解析と新規創薬標的の探索	五味 文	眼科	1,690,000	補 日本学術振興会
自家培養口腔粘膜上皮シート移植による角膜上皮再生治療法の実施共同臨床試験	西田幸二	眼科	73,460,000	補 厚生労働省
三重らせん形成を駆動力とするコラーゲン選択的な生体適合性架橋剤とエキシマレーザー技術の融合による革新的角膜治療技術の開発	西田 幸二	眼科	15,600,000	補 文部科学省
自家疾患角膜内皮細胞もしくは、他家角膜内皮細胞および他家多性幹細胞より作製した細胞株を用いた角膜内皮細胞再生治療法の実施	西田 幸二	眼科	57,600,000	委 (独) 医薬基盤研究所

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
高解像度人工網膜電極の開発・評価	不二門 尚	眼科	18,603,000	委	文部科学省
iPS細胞を用いた自家角膜再生治療法の開発	西田 幸二	眼科	46,280,000	委	文部科学省
基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発/橋渡し促進技術開発/細胞シートによる多施設臨床研究を目指した基盤システムの構築	西田 幸二	眼科	29,785,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発/橋渡し促進技術開発/細胞シートによる多施設臨床研究を目指した基盤システムの構築	西田 幸二	眼科	2,590,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
次世代医療機器評価指標作成事業 再生医療分野	西田 幸二	眼科	4,700,000	委	国立医薬品食品衛生研究所
広面角眼底カメラを用いた未熟児の眼底検査と遠隔診断システムの開発(関西地区)	不二門 尚	眼科	1,500,000	委	(独)国立成育医療研究センター
(若手B)実験的自己免疫性ぶどう膜炎におけるmiRNAの発現解析	橋田 徳康	眼科	2,080,000	補	文部科学省
(若手B)脈絡膜新生血管における樹状細胞の役割	中井 慶	眼科	717,262	補	文部科学省
(若手B)短焦点高速型波面センサーを用いたオキュラーサーフェス疾患の光学的特性評価	高 静花	眼科	350,688	補	文部科学省
リポドミクスによるホスホリパーゼB/リパーゼの小腸粘膜細胞分化促進機構の解析	今井 貴夫	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,470,000	補	文部科学省
統合失調症脆弱性遺伝子ディスバインジンの遺伝子改変動物を用いた分子病態解析	西池 季隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,040,000	補	日本学術振興会
ダイナミックな場における細胞接着シグナルの時空間計測と制御	猪原 秀典	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補	日本学術振興会
癌特異的エネルギー代謝を標的とした新規食道癌治療法の開発	森友 寿夫	整形外科	4,420,000	補	日本学術振興会
眼内血管新生疾患に対する新規薬物療法の検討	吉川 秀樹	整形外科	5,590,000	補	日本学術振興会
HBV持続発現小動物モデルを用いたHBV複製機構ならびにHBV変異誘発機構の解明	菅本 一臣	整形外科	9,360,000	補	日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小胞体分子シャペロン誘導剤のアルツハイマー病治療への応用研究	西井 孝	整形外科	9,230,000	補	日本学術振興会
WT1遺伝子発現異常による造血幹細胞への影響と白血病発症に関する分子生物学的解析	橋本 伸之	整形外科	1,430,000	補	日本学術振興会
離島・農村地域における生活習慣病対策の環境整備とその評価に関する研究	富田 哲也	整形外科	2,470,000	補	日本学術振興会
化合物BIXの薬効解析 (in vitro解析)	村瀬 剛	整形外科	1,000,000	補	日本学術振興会
体幹保持機能障害のある身体障害者に対して生体内3次元解析システムを用いた脊椎骨構築および動態情報フィードバック型革新的体幹保持デバイスの開発	菅本一臣	整形外科	4,800,000	補	厚生労働省
患者別に機能発現する階層構造インプラント	吉川 秀樹	整形外科	21,060,000	補	文部科学省
未来型運動器インプラントの3次元手術支援部材及びシステム	村瀬 剛	整形外科	6,999,300	委	(独) 科学技術振興機構
次世代機能代替技術の研究開発/次世代再生医療技術の研究開発/少量の細胞により生体内で自己組織の再生を促す自律成熟型再生デバイスの開発 (生体内で自律的に成熟する臓器再生デバイスのための基盤研究開発)	吉川 秀樹	整形外科	6,399,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
ヒト幹細胞産業応用促進基盤技術開発/ヒト幹細胞実用化に向けた評価基盤技術開発/ヒト幹細胞の安定的な培養・保存技術の研究開発	吉川 秀樹	整形外科	12,600,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
3次元動態解析と手術ガイドを応用した新規人工関節手術システム	吉川 秀樹	整形外科	1,001,700	委	経済産業省
真空維持技術を利用したテーラーメイドのバイオ医薬用の保存安定化プロセスの研究開発	菅野 伸彦	整形外科	213,675	委	経済産業省
幹細胞システム制御機構におけるリン酸化シグナルの機能解析	井川 健	皮膚科	1,430,000	補	文部科学省
腸管局所樹状細胞における抑制性シグナルの同定と炎症性腸疾患	中島 武之	皮膚科	2,340,000	補	文部科学省
酸化促進・抑制因子と動脈硬化性疾患リスクに関する大規模コホート研究	小豆澤 宏明	皮膚科	2,080,000	補	文部科学省
ミオトニー症候群-Naチャンネル病と筋強直性ジストロフィー症-の病態解明	玉井 克人	皮膚科	10,140,000	補	日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
統合失調症患者における脆弱性遺伝子ディスバインジンによる病態研究	板見 智	皮膚科	910,000	補	日本学術振興会
ユビキチン系による選択的基質識別メカニズム	片山 一朗	皮膚科	1,300,000	補	日本学術振興会
脂肪細胞から核の初期化を経て誘導した軟骨細胞による軟骨修復	金田 眞理	皮膚科	2,080,000	補	日本学術振興会
白斑・白皮症の本邦における診断基準及び治療指針の確立	片山一朗	皮膚科	19,500,000	補	厚生労働省
表皮水疱症の根治的治療法確立に関する研究	玉井克人	皮膚科	39,000,000	補	厚生労働省
改良型AG-30 (AE289) の前臨床研究	玉井 克人	皮膚科	55,000,000	委	(独) 医薬基盤研究所
新規脳梗塞治療薬を目指した機能的組織再生促進医薬の開発	玉井 克人	皮膚科	1,200,000	委	(独) 科学技術振興機構
骨髄由来間葉系幹細胞動員因子による非瘢痕性機能的組織再生誘導医薬開発のための基盤研究	玉井 克人	皮膚科	20,000,000	委	(財) 千里ライフサイエンス振興財団
スキャフォールドを用いない間葉系幹細胞由来三次元人工組織による骨軟骨再生	菊池 守	形成外科	2,340,000	補	文部科学省
炎症性腸疾患における免疫寛容破綻の分子機序の解明および新規遺伝子治療法の開発	松田 健	形成外科	1,820,000	補	文部科学省
消化管運動におけるカハール介在細胞の関与 - 2型糖尿病における病的意義	坂井 靖夫	形成外科	5,850,000	補	日本学術振興会
福山型筋ジストロフィーおよび類縁疾患のユニークな治療法開発と病態解明	細川 亙	形成外科	2,470,000	補	日本学術振興会
(若手B) P75 遺伝子の神経再生における役割と治療への応用	波多 祐紀	形成外科	1,170,000	補	文部科学省
(若手B) ケロイドにおけるCOMPの発現と役割について	庄野 文恵	形成外科	1,560,000	補	文部科学省
(若手B) 双方向の再生軸索を含む新しい神経移植法に関する研究	谷川 知子	形成外科	1,820,000	補	文部科学省

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
酸素分圧の骨組織への影響とそのメカニズムの解明	北川 一夫	神経内科・脳卒中科	650,000	補 日本学術振興会
前立腺炎によるマウス前立腺癌モデルの確立	八木田 佳樹	神経内科・脳卒中科	650,000	補 日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系(幹)細胞を用いた肝再生療法の開発に関する研究	中辻 裕司	神経内科・脳卒中科	1,690,000	補 日本学術振興会
筋チャンネル病および関連疾患の診断・治療指針作成および新規治療法開発に向けた基盤整備のための研究	高橋正紀	神経内科・脳卒中科	19,500,000	補 厚生労働省
超音波を用いた難治性疾患への新規治療法の開発	安田 由華	神経科・精神科	2,080,000	補 文部科学省
腫瘍幹細胞に立脚した腫瘍の性格付けに関する研究	武田 雅俊	神経科・精神科	4,290,000	補 日本学術振興会
アミロイドベータの分解を促進する方法の開発	橋本 亮太	神経科・精神科	8,450,000	補 日本学術振興会
ゼブラフィッシュ疾患モデルによる遺伝性網膜疾患における視細胞死の機構の解明	岩瀬 真生	神経科・精神科	910,000	補 日本学術振興会
p21遺伝子のシュワン細胞における役割、及び治療への応用	工藤 喬	神経科・精神科	1,300,000	補 日本学術振興会
不完全観測を伴う計数過程情報に対する統計モデルの推測と3タイプ部分尤度の研究	田上 真次	神経科・精神科	1,170,000	補 日本学術振興会
癌細胞の浸潤・転移を制御する膜近傍領域でのマトリックスリモデリング	森原 剛史	神経科・精神科	1,300,000	補 日本学術振興会
消化管における細胞間バリア機構の解明	田中 稔久	神経科・精神科	1,300,000	補 日本学術振興会
上皮細胞における膜インターフェイスとしての細胞間接着関連分子群	石井 良平	神経科・精神科	650,000	補 日本学術振興会
PUBドメイン含有ユビキチンリガーゼの品質管理における役割	喜多村 祐里	神経科・精神科	910,000	補 日本学術振興会
ラットにおける侵害受容モニターの開発	大河内 正康	神経科・精神科	1,950,000	補 日本学術振興会

小計

15

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
精神疾患の生物学的病態解明研究－最新の神経科学・分子遺伝学との融合－	武田雅俊	神経科・精神科	28,600,000	補 厚生労働省
リン酸化タウの凝集阻害及び分解促進を標的とした新しいアルツハイマー病の根本治療法に関する研究	武田雅俊	神経科・精神科	14,250,000	補 厚生労働省
統合失調症発症脆弱性因子Dysbindinの機能解析	橋本 亮太	神経科・精神科	3,900,000	委 (独) 科学技術振興機構
タウ蛋白の病態に関連する根治薬開発	田中 稔久	神経科・精神科	3,000,000	委 (独) 国立長寿医療研究センター
哺乳類概日時計システムにおける転写後制御の解析	橋本 直哉	脳神経外科	3,900,000	補 文部科学省
遺伝性認知症関連蛋白群とユビキチンシステムの関与による神経変性メカニズム	木下 学	脳神経外科	1,236,000	補 文部科学省
近赤外分光法による脳血流同時測定を用いた精神疾患の経頭蓋磁気刺激治療法の開発研究	吉峰 俊樹	脳神経外科	9,750,000	補 日本学術振興会
病原微生物に対する自然免疫作動機序の解析	橋本 直哉	脳神経外科	650,000	補 日本学術振興会
腫瘍幹細胞による腫瘍の個性化に関する研究	貴島 晴彦	脳神経外科	1,170,000	補 日本学術振興会
鼻腔NK/T細胞リンパ腫発生要因の系統的解析	香川 尚己	脳神経外科	1,300,000	補 日本学術振興会
AML1点突然変異体による骨髄異形成症候群発症の病態解析	藤中 俊之	脳神経外科	1,950,000	補 日本学術振興会
日本の特長を活かしたBMIの統合的研究開発	吉峰 俊樹	脳神経外科	38,000,000	委 文部科学省
脊髄損傷患者に対するリハビリテーションを併用した神経再生法の開発	岩月 幸一	脳神経外科	16,500,000	委 筑波大学
(挑戦的萌芽) MRレポーター遺伝子を用いた単一細胞MR画像追跡による神経膠芽腫脳内浸潤の解明	有田 英之	脳神経外科	1,800,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
(若手B) レーザースペックル血流計を用いた脳虚血周囲領域の血流変化イメージング	中村 元	脳神経外科	1,300,000	補 文部科学省

小計

15

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
(若手B) Affibodyを用いた中枢神経系悪性腫瘍のHER-2受容体発現の画像化	木下 学	脳神経外科	828,454	補 文部科学省
(若手B) 脊髄損傷に対する自己嗅粘膜由来多細胞移植の検討	石原 正浩	脳神経外科	2,860,000	補 文部科学省
(若手B) 悪性神経腫瘍における腫瘍幹細胞を標的とした間葉系幹細胞療法を試み	木嶋 教行	脳神経外科	2,080,000	補 文部科学省
自然免疫系の活性制御機構の解析	中江 文	麻酔科	5,102,400,000	補 文部科学省
ライフスタイル変容を決定する高次脳機能と遺伝子発現制御情報に係る予防医学研究	植田 一吉	麻酔科	1,040,000	補 文部科学省
高齢者における身体機能障害の社会階層間格差とそのメカニズムに関する研究	真下 節	麻酔科	5,460,000	補 日本学術振興会
組織工学による人工血管の生体内イメージングによる自己組織化機序の検討	澁田 達史	麻酔科	1,040,000	補 日本学術振興会
皮膚表皮細胞特異的PBP遺伝子欠損マウスの作成とその解析	上林 卓彦	麻酔科	1,430,000	補 日本学術振興会
制御性T細胞の抑制と腫瘍特異的な薬物送達を可能にするVirusomeの開発	藤野 裕士	麻酔科	1,300,000	補 日本学術振興会
ナノサイズリポソームを用いた急性心筋梗塞治療法の開発	宮本 善一	麻酔科	1,950,000	補 日本学術振興会
消化器がん個別化医療におけるファンクショナルゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクスの臨床応用と治療体制の確立	後藤 幸子	麻酔科	1,690,000	補 日本学術振興会
進行肝細胞癌に対する集学的治療確立に関する研究	柴田 政彦	麻酔科	2,860,000	補 日本学術振興会
骨関連手術支援システムとしての3D-GBSの開発	真下 節	麻酔科	1,700,000	補 日本学術振興会
(若手B) 複合性局所疼痛症候群の高次運動機能障害評価とその機構解明	植松 弘進	麻酔科	650,000	補 文部科学省
(若手B) 脳死後の心機能障害におけるβ2受容体の役割	山中 寛男	麻酔科	2,210,000	補 文部科学省

小計

15

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肝細胞癌固有のシグナルと分子を標的とした新規治療法の展開	香山 晋輔	産科婦人科	1,820,000	補 文部科学省
自己幹細胞由来心筋細胞シートによる移植医療にかかわる重症心不全治療法の開発	馬淵 誠士	産科婦人科	2,080,000	補 文部科学省
ニコチンによる海馬シナプスのリモデリング	磯部 晶	産科婦人科	1,560,000	補 文部科学省
細胞膜型アミノ酸センサーの分子同定と機能解析	上田 豊	産科婦人科	2,470,000	補 文部科学省
Aβ ₂₅₋₃₅ 離散・クリアランスをターゲットとした認知症治療法に関する研究	木村 正	産科婦人科	3,510,000	補 日本学術振興会
脳磁図による脳虚血性疾患の神経機能評価	谷口 友基子	産科婦人科	780,000	補 日本学術振興会
小児脳腫瘍における腫瘍幹細胞分離・培養とテララーメイド治療の開発	金川 武司	産科婦人科	1,170,000	補 日本学術振興会
成人がん患者と小児がん患者の家族に対する望ましい心理社会的支援のあり方に関する研究	富松 拓治	産科婦人科	2,080,000	補 日本学術振興会
搬送救急患者の予後調査・分析に関する研究	榎本 隆之	産科婦人科	1,950,000	補 日本学術振興会
B型及びC型肝炎ウイルスの感染による肝がん発症の病態解明とその予防・治療法の開発に関する研究	藤田 征巳	産科婦人科	1,950,000	補 日本学術振興会
両アレル変異ES細胞バンクの作製	岡田 陽子	小児科	1,170,000	補 文部科学省
不正乱視に対する治療的屈折矯正手段の基礎的研究	荒城 仁美	小児科	1,170,000	補 文部科学省
RGS蛋白質によるG蛋白質シグナルの生理的制御機構の解明	大藪 恵一	小児科	1,820,000	補 日本学術振興会
K ⁺ ・水輸送を担う機能的微少膜プラットフォームの同定と構成基盤の解析	難波 範行	小児科	1,300,000	補 日本学術振興会
生体膜トランスポートソームの分子構築と生理機能	三善 陽子	小児科	780,000	補 日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
有機溶質トランスポートソーム：その構築と機能的意義	酒井 規夫	小児科	910,000	補	日本学術振興会
脊髄損傷に対する自家嗅粘膜移植による再生治療	橋井 佳子	小児科	2,340,000	補	日本学術振興会
脈絡膜上経網膜電気刺激(STS)法による人工視覚システムの臨床応用	毛利 育子	小児科	1,820,000	補	日本学術振興会
神経前駆細胞の非対称分裂に関与する分子装置の解析	谷池 雅子	小児科	1,600,000	補	日本学術振興会
発達障害児(者)支援事業	谷池 雅子	小児科	7,115,000	委	堺市
発達障がい児(者)の研究	谷池 雅子	小児科	2,500,000	委	池田市
小児科女性医師の育児・復帰支援に関する研究	三善 陽子	小児科	2,500,000	委	(独)国立成育医療研究センター
臨床診断用DNAチップを用いた食道癌に対する化学療法感受性予測システムの構築	辻村 晃	泌尿器科	130,000	補	日本学術振興会
トランスポゾンを用いた網羅的変異マウス作製によるゲノム機能の解析	野々村 祝夫	泌尿器科	1,430,000	補	日本学術振興会
脈絡膜上経網膜電気刺激(STS)法による人工視覚システムの臨床応用	矢澤 浩治	泌尿器科	2,730,000	補	日本学術振興会
精神疾患脆弱性遺伝子と中間表現型に基づく新しい診断方法・治療法の開発に関する研究	宮川 康	泌尿器科	2,470,000	補	日本学術振興会
(研究活動スタート支援) 精巢腫瘍高転移細胞株に高発現する分泌蛋白SERPINE2の抗体製作及び機能解析	永原 啓	泌尿器科	1,599,000	補	独立行政法人日本学術振興会
心不全における心筋細胞死の分子機構の解明と臨床への応用	大西 裕満	放射線診断科	1,040,000	補	文部科学省
コンピュータ断層画像を用いた肺リモデリング評価用バイオマーカーの創出	前田 登	放射線診断科	1,430,000	補	文部科学省
新しい概念(エピジェネティクス)を応用した難治性心不全発症分子メカニズムの解明	堀 雅敏	放射線診断科	1,560,000	補	日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肝がんに対する血管塞栓物質についての研究	大須賀 慶悟	放射線診断科	1,000,000	委	(独) 国立がん研究センター
進行肺がんのための画像抽出方法の考案や臨床応用における最適化に関する研究	富山 憲幸	放射線診断科	800,000	委	(独) 国立がん研究センター
頸動脈ステント留置術後の再狭窄に対するシロスタゾールの効果に関する多施設共同無作為化比較試験 (CAS-CARE)	渡邊 嘉之	放射線診断科	477,750	委	(財) 先端医療振興財団
遺伝子多型を用いた心筋梗塞治療の個別化法の開発	吉岡 靖生	放射線治療科	780,000	補	文部科学省
低アディポネクチン血症概念の確立と治療法の開発; 心血管病における脂肪細胞の意義	磯橋 文明	放射線治療科	650,000	補	文部科学省
カルシウムによるイオンチャネル活性調節の構造的基盤の解析	下瀬川 恵久	核医学診療科	650,000	補	日本学術振興会
PET/MRI一体型装置の概念設計とソフトウェアの開発	畑澤 順	核医学診療科	50,000,000	委	(独) 医薬基盤研究所
PET認知症診断薬の製造環境整備と臨床応用に関する研究	下瀬川 恵久	核医学診療科	2,700,000	委	(独) 国立長寿医療研究センター
(基盤C) ミトコンドリア傷害の抑制による肺虚血再灌流障害制御の試みと新たな臓器保存液の開発	南 正人	手術部	1,040,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
(若手B) 不整脈制御タンパクの同定と揮発性麻酔薬の作用	岩崎 光生	手術部	1,040,000	補	文部科学省
(基盤C・分担) 胸腺上皮性腫瘍のT細胞分化におけるオートファジーの役割の解析	南 正人	手術部	65,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
(基盤C) 新世代PETにおける腫瘍内集積不均一と生物学的要因・治療効果との関連に関する研究	巽 光朗	放射線部	1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
(若手B) 治療抵抗性肝腫瘍の化学塞栓療法における薬剤溶出性高吸水性ポリマーの開発	前田 登	放射線部	1,430,000	補	文部科学省
(基盤C) 海馬神経新生の制御による産後・周産期うつ病の治療法の確立	北畠 康司	総合周産期母子医療センター	1,560,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
(若手B) 卵巣癌腹膜播種に関するマイクロRNAの検査とその機能の解析	澤田 健二郎	総合周産期母子医療センター	1,300,000	補	文部科学省

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
(挑戦的萌芽・分担) 卵巣癌の間葉系幹細胞の同定と機能解析—その分子標的治療に向けての基礎的研究	澤田 健二郎	総合周産期母子医療センター	700,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
(JSTさきがけ) 染色体異常症候群における合併症の発症メカニズムの解明	北島 康司	総合周産期母子医療センター	17,069,000	補 独立行政法人科学技術振興機構
(厚生労働科研(分担)) 重症新生児のアウトカム改善に関する多施設共同研究	和田和子	総合周産期母子医療センター	1,950,000	補 厚生労働省
(基盤B) miRNAの痛みのメカニズムへの関与の解明	萩平 哲	集中治療部	4,160,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
(基盤C) 集中治療部の呼吸不全、人工呼吸患者における横隔膜筋力の検討	内山 昭則	集中治療部	650,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
(基盤C) 敗血症によって惹起される細胞性免疫能の抑制状態の解析と治療	大田 典之	集中治療部	1,690,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
神経カラム電気刺激による視覚再建のための多角的アプローチ	池田 純一郎	病理部	2,080,000	補 文部科学省
siRNAによる遺伝子発現抑制系を用いたプレコンディショニングの機序の解明	森井 英一	病理部	1,300,000	補 日本学術振興会
(基盤C) 可変ブレーキを用いた下肢荷重トレーニング機器の開発	木村 佳記	リハビリテーション部	2,535,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
(基盤C) 股関節の生体内動態解析評価システムの開発	坂井 孝司	リハビリテーション部	1,430,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
(基盤C) 血栓形成のポジティブおよびネガティブ制御機構の解析	富山 佳昭	輸血部	1,430,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
(基盤C・分担) β 3インテグリンの機能調節に関わる分子のクローニングおよびその解析	富山 佳昭	輸血部	260,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
(厚生労働科研(分担)) 血液凝固異常症に関する調査研究	富山佳昭	輸血部	4,940,000	補 厚生労働省
(厚生労働科研(分担)) 血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎および臨床的研究	富山佳昭	輸血部	1,040,000	補 厚生労働省
脾ペーテ細胞の多様性に関する研究	笠原 彰紀	総合診療部	2,080,000	補 日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
眼組織幹細胞の分化誘導と再生医療への応用	松村 泰志	医療情報部	1,040,000	補 日本学術振興会
(基盤C) 初期診断の支援システムのための知識収集および処理方法に関する研究	松村 泰志	医療情報部	567,632	補 独立行政法人日本学術振興会
脳内にあるアルツハイマー病アミロイドβ以外のアミロイドβ様ペプチド群の性質	小倉 裕司	高度救命救急センター	18,200,000	補 日本学術振興会
改良型AG-30の製剤化・薬効検討	小倉 裕司	高度救命救急センター	1,000,000	補 日本学術振興会
(基盤B) 敗血症・多臓器不全における内在性幹細胞機能障害の解析と細胞移植再生治療の開発	松本 直也	高度救命救急センター	5,070,000	補 独立行政法人日本学術振興会
(挑戦的萌芽) 院内における突然の心停止を予防する方策の検討	入澤 太郎	高度救命救急センター	900,000	補 独立行政法人日本学術振興会
(若手B) 医療機関のFlexibilityが救急医療に及ぼす影響	藤井 良幸	高度救命救急センター	1,300,000	補 文部科学省
医療施設運営費等補助金/救急医療支援センター運営事業	鎌方 安行	高度救命救急センター	108,595,000	補 厚生労働省
(基盤C) 造血幹細胞の増殖・分化におけるエネルギー代謝制御	江副 幸子	未来医療センター	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
(若手A) 細胞移植を模倣した新規心筋再生因子キャリアによる心筋再生治療の確立	齋藤 充弘	未来医療センター	8,710,000	補 文部科学省
(基盤B・分担) iPS細胞を応用した自己心筋組織による心不全に対する新しい再生療法の開発	松山 晃文	未来医療センター	390,000	補 独立行政法人日本学術振興会
(研究活動スタート支援) 難治性神経障害に対する新規治療ターゲットに関する研究	岡田 深	未来医療センター	1,599,000	補 独立行政法人日本学術振興会
(受託研究・TR事業) TR実践のための戦略的高機能拠点整備	澤 芳樹	未来医療センター	200,426,808	委 文部科学省
(NEDO・A0020) 基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発/橋渡し促進技術開発/細胞シートによる多施設臨床研究を目指した基盤システムの構築	澤 芳樹	未来医療センター	97,233,850	委 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
(厚生労働科研分担) 表皮水疱症の根治的治療法確立に関する研究	江副 幸子	未来医療センター	2,600,000	補 厚生労働省

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
(厚生労働科研(分担))重症拡張型心筋症へのbridge-to-transplantation/recoveryを目指した新規治療法の開発と実践	松山 晃文	未来医療センター	188,500,000	補 厚生労働省
(厚生労働科研(分担))3次元再生軟骨・骨組織における安全性と有効性の確立	名井陽	未来医療センター	390,000	補 厚生労働省
(厚生労働科研(分担))治療抵抗性統合失調症に対する抑肝散の有用性と安全性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験	江副 幸子	未来医療センター	910,000	補 厚生労働省
(厚生労働科研(分担))治療抵抗性統合失調症に対する抑肝散の有用性と安全性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験	名井陽	未来医療センター	780,000	補 厚生労働省
(厚生労働科研(分担))治療抵抗性統合失調症に対する抑肝散の有用性と安全性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験	澤芳樹	未来医療センター	22,750,000	補 厚生労働省
(厚生労働科研(分担))心不全に対する再生医療と人工心臓の複合戦略-CD29high CD34low c-kit+ CD140a+ 骨髄細胞による臨床研究と基盤研究-	齋藤 充弘	未来医療センター	1,300,000	補 厚生労働省
(基盤B)大学病院における医療安全・質向上方策の定量的評価に関する研究	中島 和江	中央クオリティマネジメント部	2,600,000	補 独立行政法人日本学術振興会
(基盤B)侵襲期低栄養患者に関するリスク評価及び病態解析	清水 健太郎	中央クオリティマネジメント部	6,760,000	補 独立行政法人日本学術振興会
(基盤C)腎虚血再還流傷害におけるオートファジーの役割について	北村 温美	血液浄化部	2,600,000	補 独立行政法人日本学術振興会
大学病院連携型高度医療人養成推進事業	笠原 彰紀	卒後教育開発センター	55,800,000	補 厚生労働省
大学病院連携型高度医療人養成推進事業(大阪医科大学分担金)	笠原 彰紀	卒後教育開発センター	2,000,000	補 厚生労働省
大学病院連携型高度医療人養成推進事業(滋賀医科大学分担金)	笠原 彰紀	卒後教育開発センター	700,000	補 厚生労働省
(厚生労働科研(分担))中性脂肪蓄積心血管症の発見 その疾患概念の確立、診断法、治療法の開発	安井 洋子	栄養マネジメント部	260,000	補 厚生労働省
(基盤C)脳虚血急性期におけるグルタミン酸受容体サブタイプによる細胞応答の差異	佐々木 勉	脳卒中センター	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
(基盤C)腫瘍原性チロシンキナーゼ依存性細胞増殖機構の弱点の解析	水木 満佐央	化学療法部	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
(基盤C) がん化学療法による認知機能障害の分子メカニズムの解明とその予防について	谷向 仁	オンコロジーセンター	1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
(基盤C) 多施設間における放射線治療機器の包括的精度向上のための基盤構築	小泉 雅彦	オンコロジーセンター	1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会

計

361

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Methods Enzymol. 2010;485:25-35.	Assessment of inverse agonism for the angiotensin II type 1 receptor.	Akazawa H, Yasuda N, Miura S, Komuro I.	循環器内科
Heart Vessels. 2010;25 (5) :444-447.	The efficacy of tocilizumab in a patient with pulmonary arterial hypertension associated with Castleman's disease.	rita Y, Sakata Y, Sudo T, Maeda T, Matsuoka K, Tamai K, Higuchi K, Shioyama W, Nakaoka Y, Kanakura Y, Yamauchi-Takahara K	循環器内科
Circ J. 2010;74 (1) :43-44.	Japan expects decrements in both the incidence and mortality of acute myocardial infarction in the modern era: likely or just a dream?	Asakura M, Minamino T, Kitakaze M.	循環器内科
Circulation. 2010;122 (4) :361-369.	Ablation of C/EBP homologous protein attenuates endoplasmic reticulum-mediated apoptosis and cardiac dysfunction induced by pressure overload.	Fu HY, Okada K, Liao Y, Tsukamoto O, Isonura T, Asai M, Sawada T, Okuda K, Asano Y, Sanada S, Asanuma H, Asakura M, Takashima S, Komuro I, Kitakaze M, Minamino T.	循環器内科
J Biochem. 2010;148 (1) :55-69.	Anti-human HB-EGF monoclonal antibodies inhibiting ectodomain shedding of HB-EGF and diphtheria toxin binding.	Hamaoka M, Chinen I, Murata T, Takashima S, Iwamoto R, Mekada E.	循環器内科
Circ Res. 2010;106 (1) :111-119.	The cellular prion protein identifies bipotential cardiomyogenic progenitors.	Hidaka K, Shirai M, Lee JK, Wakayama T, Kodama I, Schneider MD, Morisaki T.	循環器内科
J Biol Chem. 2010;285 (41) :31337-31347.	Isoform-specific intermolecular disulfide bond formation of heterochromatin protein 1 (HP1).	Higo S, Asano Y, Kato H, Yamazaki S, Nakano A, Tsukamoto O, Seguchi O, Asai M, Asakura M, Asanuma H, Sanada S, Minamino T, Komuro I, Kitakaze M, Takashima S.	循環器内科
Circ J. 2010;75 (1) :94-98.	Distal protection during primary coronary intervention can preserve the index of microcirculatory resistance in patients with acute anterior ST-segment elevation myocardial infarction.	Ito N, Nanto S, Doi Y, Kurozumi Y, Tomomura D, Natsukawa T, Sawano H, Masuda D, Yamashita S, Okada K, Hayashi Y, Kai T, Hayashi T.	循環器内科
Circ J. 2010;74 (5) :909-915.	High index of microcirculatory resistance level after successful primary percutaneous coronary intervention can be improved by intracoronary administration of nicorandil.	Ito N, Nanto S, Doi Y, Sawano H, Masuda D, Yamashita S, Okada K, Kaibe S, Hayashi Y, Kai T, Hayashi T.	循環器内科
J Clin Invest. 2010;120 (1) :242-253.	Cardiac mast cells cause atrial fibrillation through PDGF-A-mediated fibrosis in pressure-overloaded mouse hearts.	Liao CH, Akazawa H, Tamagawa M, Ito K, Yasuda N, Kudo Y, Yamamoto R, Ozasa Y, Fujimoto M, Wang P, Nakauchi H, Nakaya H, Komuro I.	循環器内科
J Mol Cell Cardiol. 2010;48 (6) :1105-1110.	ER stress in cardiovascular disease.	Minamino T, Kitakaze M.	循環器内科
Circ Res. 2010;107 (9) :1071-1082.	Endoplasmic reticulum stress as a therapeutic target in cardiovascular disease.	Minamino T, Komuro I, Kitakaze M.	循環器内科
Biomed Res. 2010;31 (6) :353-361.	Glial cell line-derived neurotrophic factor (GDNF) enhances sympathetic neurite growth in rat hearts at early developmental stages.	Miwa K, Lee JK, Takagishi Y, Ophhof T, Fu X, Kodama I.	循環器内科
J Mol Cell Cardiol. 2010;48 (2) :302-309.	Activation of MTK1/MEK4 induces cardiomyocyte death and heart failure.	Mizote I, Yamaguchi O, Hikoso S, Takeda T, Taneike M, Oka T, Tamai T, Oyabu J, Matsumura Y, Nishida K, Komuro I, Hori M, Otsu K.	循環器内科

小計

14

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Int J Cardiol. 2010.	Rationale and design of a study to evaluate effects of pitavastatin on Japanese patients with chronic heart failure The pitavastatin heart failure study (PEARL study).	Mizuma H, Inoue T, Takano H, Shindo S, Oka T, Fujimatsu D, Kuwabara Y, Node K, Komuro I.	循環器内科
Circ Res. 2010;106(11):1692-1702.	Promotion of CHIP-mediated p53 degradation protects the heart from ischemic injury.	Naito AT, Okada S, Minamino T, Iwanaga K, Liu ML, Sumida T, Nomura S, Sahara N, Mizoroki T, Takashima A, Akazawa H, Nagai T, Shiojima I, Komuro I.	循環器内科
Circ Res. 2010;107(11):1295-1303.	Wnt signaling and aging-related heart disorders.	Naito AT, Shiojima I, Komuro I.	循環器内科
Nat Cell Biol. 2010;12(6):583-590.	AMPK controls the speed of microtubule polymerization and directional cell migration through CLIP-170 phosphorylation.	Nakano A, Kato H, Watanabe T, Min KD, Yamazaki S, Asano Y, Seguchi O, Higo S, Shintani Y, Asanuma H, Asakura M, Minamino T, Kaibuchi K, Mochizuki N, Kitakaze M, Takashima S.	循環器内科
J Cardiol Cases. 2010;Feb:e23-e27.	Pulmonary hypertension associated with bone marrow transplantation.	Nakaoka H, Sakata Y, Yamamoto M, Maeda T, Arita Y, Shioyama W, Nakaoka Y, Kanakura Y, Yamashita S, Komuro I, Yamauchi-Takahara K.	循環器内科
J Mol Cell Cardiol. 2010;49(2):157-164.	SHP2 mediates gp130-dependent cardiomyocyte hypertrophy via negative regulation of skeletal alpha-actin gene.	Nakaoka Y, Shioyama W, Kunimoto S, Arita Y, Higuchi K, Yamamoto K, Fujio Y, Nishida K, Kuroda T, Hirota H, Yamauchi-Takahara K, Hirano T, Komuro I, Mochizuki N.	循環器内科
Circ J. 2010;74(8):1530-1531.	Do we facilitate facilitated percutaneous coronary intervention and pre-intervention thrombolysis?	Nakatani D, Sato H.	循環器内科
J Thorac Cardiovasc Surg. 2010;140(4):764-768.	Predictive value of preoperative tissue Doppler echocardiographic analysis for postoperative atrial fibrillation after pulmonary resection for lung cancer.	Nojiri T, Maeda H, Takeuchi Y, Funakoshi Y, Maekura R, Yamamoto K, Okumura M.	循環器内科
Circulation. 2010;121(5):684-691.	Therapeutic activation of signal transducer and activator of transcription 3 by interleukin-11 ameliorates cardiac fibrosis after myocardial infarction.	Obana M, Maeda M, Takeda K, Hayama A, Mohri T, Yamashita T, Nakaoka Y, Komuro I, Matsumiya G, Azuma J, Fujio Y.	循環器内科
J Atheroscler Thromb. 2010;17(6):568-577.	HDL/apolipoprotein A-I binds to macrophage-derived progranulin and suppresses its conversion into proinflammatory granulins.	Okura H, Yamashita S, Ohama T, Saga A, Yamamoto-Kakuta A, Hamada Y, Sougawa N, Ohyama R, Sawa Y, Matsuyama A.	循環器内科
Circ J. 2010;75(1):51-52.	Neointimal coverage over coronary stent struts crossing the side branch Ostia.	Sakata Y.	循環器内科
J Atheroscler Thromb. 2010;17(9):914-924.	Molecular mechanisms of ezetimibe-induced attenuation of postprandial hypertriglyceridemia.	Sandoval JC, Nakagawa-Toyama Y, Masuda D, Tochino Y, Nakaoka H, Kawase R, Yuasa-Kawase M, Nakatani K, Inagaki M, Tsubakio-Yamamoto K, Ohama T, Matsuyama A, Nishida M, Ishigami M, Komuro I, Yamashita S.	循環器内科
J Atheroscler Thromb. 2010;17(6):610-618.	Fenofibrate reduces postprandial hypertriglyceridemia in CD36 knockout mice.	Sandoval JC, Nakagawa-Toyama Y, Masuda D, Tochino Y, Nakaoka H, Kawase R, Yuasa-Kawase M, Nakatani K, Inagaki M, Tsubakio-Yamamoto K, Ohama T, Nishida M, Ishigami M, Komuro I, Yamashita S.	循環器内科
J Mol Cell Cardiol. 2010;48(6):1280-1289.	X-box binding protein 1 regulates brain natriuretic peptide through a novel API/CRE-like element in cardiomyocytes.	Sawada T, Minamino T, Fu HY, Asai M, Okuda K, Isoaura T, Yamazaki S, Asano Y, Okada K, Tsukamoto O, Sanada S, Asanuma H, Asakura M, Takashima S, Kitakaze M, Komuro I.	循環器内科
J Clin Invest. 2010;120(5):1506-1514.	Excessive cardiac insulin signaling exacerbates systolic dysfunction induced by pressure overload in rodents.	Shimizu I, Minamino T, Toko H, Okada S, Ikeda H, Yasuda H, Tateno K, Moriya J, Yokoyama M, Nojima A, Koh GY, Akazawa H, Shiojima I, Kahn CR, Abel ED, Komuro I.	循環器内科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Hematol. 2010;92(5):774-776.	Sildenafil and steroid therapy effectively improved POEMS syndrome-associated pulmonary arterial hypertension.	Shimomura Y, Hara M, Mizote I, Nakaoka Y, Tanaka H, Asano Y, Sakata Y, Komuro I.	循環器内科
Basic Res Cardiol. 2010;105(6):787-794.	A histamine H receptor blocker ameliorates development of heart failure in dogs independently of beta-adrenergic receptor blockade.	Takahama H, Asanuma H, Sanada S, Fujita M, Sasaki H, Wakeno M, Kim J, Asakura M, Takashima S, Minamino T, Komamura K, Sugimachi M, Kitakaze M.	循環器内科
J Clin Invest. 2010;120(1):254-265.	Cardiac fibroblasts are essential for the adaptive response of the murine heart to pressure overload.	Takeda N, Manabe I, Uchino Y, Eguchi K, Matsumoto S, Nishimura S, Shindo T, Sano M, Otsu K, Snider P, Conway SJ, Nagai R.	循環器内科
J Cardiol. 2010;56(2):176-182.	Long-term beta-blocker therapy improves diastolic function even without the therapeutic effect on systolic function in patients with reduced ejection fraction.	Tamaki S, Sakata Y, Mano T, Ohtani T, Takeda Y, Kamimura D, Omori Y, Yamamoto K.	循環器内科
Autophagy. 2010;6(5).	Inhibition of autophagy in the heart induces age-related cardiomyopathy.	Janeike M, Yamaguchi O, Nakai A, Hikoso S, Takeda T, Mizote I, Oka T, Tamai T, Oyabu J, Murakawa T, Nishida K, Shimizu T, Hori M, Komuro I, Shirasawa T, Mizushima N, Otsu K.	循環器内科
Circulation. 2010;122(9):891-899.	Ca ²⁺ /calmodulin-dependent kinase I δ causes heart failure by accumulation of p53 in dilated cardiomyopathy.	Toko H, Takahashi H, Kayama Y, Oka T, Minawano T, Okada S, Morimoto S, Zhan DY, Terasaki F, Anderson ME, Inoue M, Yao A, Nagai R, Kitaura Y, Sasaguri T, Komuro I.	循環器内科
J Atheroscler Thromb. 2010;17(9):891-900.	Current therapy for patients with sitosterolemia—effect of ezetimibe on plant sterol metabolism.	Tsubakio-Yamamoto K, Nishida M, Nakagawa-Toyama Y, Masuda D, Ohama T, Yamashita S.	循環器内科
J Clin Invest. 2010;120(6):2016-2029.	Sonic hedgehog is a critical mediator of erythropoietin-induced cardiac protection in mice.	Ueda K, Takano H, Niitsuma Y, Hasegawa H, Uchiyama R, Oka T, Miyazaki M, Nakaya H, Komuro I.	循環器内科
Circ J. 2010;74(1):49-50.	Novel in vivo tool to evaluate autophagic activity in the heart.	Yamaguchi O, Otsu K.	循環器内科
Circ J. 2010;74(6):1071-1072.	How is combination therapy with ACEI and ARB applied in patients with acute myocardial infarction?	Yamamoto K.	循環器内科
Hypertens Res. 2010;33(3):269-274.	Prognostic factors for progression of early- and late-stage calcific aortic valve disease in Japanese: the Japanese Aortic Stenosis Study (JASS) Retrospective Analysis.	Yamamoto K, Yamamoto H, Yoshida K, Kisanuki A, Hirano Y, Ohte N, Akasaka T, Takeuchi M, Nakatani S, Ohtani T, Sozu T, Masuyama T.	循環器内科
J Atheroscler Thromb. 2010;17(5):436-451.	Molecular mechanisms of HDL-cholesterol elevation by statins and its effects on HDL functions.	Yamashita S, Tsubakio-Yamamoto K, Ohama T, Nakagawa-Toyama Y, Nishida M.	循環器内科
Glycobiology. 2010;20(10):1217-1226.	Inhibition of phospholamban phosphorylation by O-GlcNAcylation: implications for diabetic cardiomyopathy.	Yokoe S, Asahi M, Takeda T, Otsu K, Taniguchi N, Miyoshi E, Suzuki K.	循環器内科
J Am Soc Nephrol 2010; 21: 1998-2007 (5/1)	Fetuin-mineral complex reflects extraosseous calcification stress in CKD.	濱野 高行	腎臓内科
Biochem Biophys Res Commun 2010; 393: 565-570. (5/7)	Microarray analysis of tonsils in immunoglobulin A nephropathy patients.	飯尾 健一郎	腎臓内科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Cell Transplant 19:1659-70 (8/17)	Intravital Two-Photon Microscopy Assessment of Renal Protection Efficacy of siRNA for p53 in Experimental Rat Kidney Transplantation Models.	今村 亮一	腎臓内科
Nephrol Dial Transplant 2011; 26:1838-46 (2/12)	Effects of chronic kidney disease and post-angiographic acute kidney injury on long-term prognosis after coronary artery angiography.	木村 友則	腎臓内科
Clin J Am Soc Nephrol 2010; 5: 1558-1565. (10/18)	Impact of age and overt proteinuria on outcomes of stage 3 to 5 chronic kidney disease in a referred cohort.	小尾 佳嗣	腎臓内科
Am J Physiol Renal Physiol 2010; 299: F1004-1013 (8/25)	Allogenic fetal membrane-derived mesenchymal stem cells contribute to renal repair in experimental glomerulonephritis.	津田 秀年	腎臓内科
Int Immunol 2010; 22: 953-962 (12/22)	Commensal microbiota induce LPS hyporesponsiveness in colonic macrophages via the production of IL-10.	上田 仁康	腎臓内科
Am J Kidney Dis 2010; 56: 313- 324. (10/25)	Cigarette smoking and progression of IgA nephropathy.	山本 陵平	腎臓内科
J Am Soc Nephrol 2011; 22: 902-913 (3/22)	Autophagy protects the proximal tubule from degeneration and acute ischemic injury.	木村 友則	腎臓内科
J Hepatol (52: 698-704, 2010)	The let7 family of microRNAs inhibits Bcl-xL expression and potentiates sorafenib-induced apoptosis in human hepatocellular carcinoma	清水 聡	消化器内科
J Gastroenterol (45: 244-248, 2010)	STAT3 signaling within hepatocyte is required for anemia of inflammation in vivo	阪森亮太郎	消化器内科
Cancer Immunol Immunother (59: 759-767, 2010)	EphA2-derived peptide vaccine with amphiphilic poly(γ -glutamic acid) nanoparticles elicits antitumor effect against mouse liver tumor	山口真二郎	消化器内科
J Hepatol (52: 872-879, 2010)	Expression of CD133 confers malignant potential by regulating metalloproteinases in human hepatocellular carcinoma	甲賀啓介	消化器内科
Gastroenterology (138: 2487-2498, 2010)	Thrombocytopenia exacerbates cholestasis-induced liver fibrosis in mice	小玉尚宏	消化器内科
Hepatology (51: 1264-1273, 2010)	Sorafenib inhibits the shedding of major histocompatibility complex class I-related chain A on hepatocellular carcinoma cells by down-regulating a disintegrin and metalloproteinase 9	甲賀啓介	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun, (394:87-93, 2010)	Fatal exacerbation of type B chronic hepatitis triggered by changes in relaxed circular viral DNA synthesis and virion secretion	大川和良	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun (394: 574-580, 2010)	Alterations in hepatitis B virus nucleotide sequences in a chronic virus carrier from immunotolerant to immuneactive phase	大川和良	消化器内科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所属部門
J Hepatol (53: 424-430, 2010)	Altered interferon- α -signaling in natural killer cells from patients with chronic hepatitis C virus infection	宮城琢也	消化器内科
J Gastroenterol (45: 1247-1254, 2010)	Absence of invariant natural killer T cells deteriorates liver inflammation and fibrosis in mice fed high-fat diet	宮城琢也	消化器内科
Hepatology (52: 1310-1321, 2010)	The Bcl-xL inhibitor, ABTT-737, efficiently induces apoptosis and suppresses growth of hepatoma cells in combination with sorafenib	足田隼人	消化器内科
Pancreatology (10: 60-65, 2010)	Phase I trial of gemcitabine dose escalation with concurrent radiotherapy for patients with locally advanced pancreatic cancer	西田 勉	消化器内科
J Gastroenterol (45: 713-720, 2010)	Roles of double-balloon endoscopy in the diagnosis and treatment of Crohn's disease: a multicenter experience	近藤純平	消化器内科
J Gastroenterol (45: 742-749, 2010)	Adiponectin deficiency enhanced the severity of cerulein-induced chronic pancreatitis in mice	山田拓哉	消化器内科
Carcinogenesis (31: 1185-1193, 2010)	MRTF-A/B suppress the oncogenic properties of v-ras- and v-src-mediated transformants	由雄敏之	消化器内科
Circulation (Jun. 2010, Vol. 121 No. 23)	The phosphodiesterase inhibitor cilostazol induces regression of carotid atherosclerosis in subjects with type 2 diabetes mellitus: principal results of the Diabetic Atherosclerosis Prevention by Cilostazol (DAPC) study: a randomized trial	Katakami N, Kim YS, Kawamori R, Yamasaki Y	内分泌・代謝内科
Diabetes Res Clin Pract (July 2010, Vol. 89 No. 1)	Monocyte chemoattractant protein-1 (MCP-1) gene polymorphism as a potential risk factor for diabetic retinopathy in Japanese patients with type 2 diabetes	Katakami N, Matsuhisa M, Kaneto H, Matsuoka T, Imamura K, Ishibashi F, Kanda T, Kawai K, Osonoi T, Kashiwagi A, Kawamori R, Shimomura I, Yamasaki Y	内分泌・代謝内科
Diabetes (Jul 2010, Vol. 59 No. 7)	Regulation of MafA expression in pancreatic beta-cells in db/db mice with diabetes	Matsuoka T, Kaneto H, Miyatsuka T, Yamamoto T, Yamamoto K, Kato K, Shimomura I, Stein R, Matsuhisa M	内分泌・代謝内科
Diabetes Res Clin Pract (Oct 2010, Vol. 90 No. 1)	Improvement of psoriatic arthritis by pioglitazone treatment in a type 2 diabetic patient	Takahara M, Shiraiwa T, Kaneto H, Yasuda T, Kuroda A, Sakamoto F, Naka T, Miyashita K, Sakamoto K, Matsuoka T, Shimomura I, Matsuhisa M	内分泌・代謝内科
Atherosclerosis (Oct 2010, Vol. 212 No. 2)	Accumulation of gene polymorphisms related to oxidative stress is associated with myocardial infarction in Japanese type 2 diabetic patients	Katakami N, Kaneto H, Matsuoka TA, Takahara M, Imamura K, Ishibashi F, Kanda T, Kawai K, Osonoi T, Kashiwagi A, Kawamori R, Matsuhisa M, Shimomura I, Yamasaki Y	内分泌・代謝内科
J Atheroscler Thromb (Nov 2010, Vol. 17 No. 11)	Long-term effects of pioglitazone on carotid atherosclerosis in Japanese patients with type 2 diabetes without a recent history of macrovascular morbidity	Yamasaki Y, Katakami N, Furukado S, Kitagawa K, Nagatsuka K, Kashiwagi A, Daida H, Kawamori R, Kaku K	内分泌・代謝内科
Diabetes Res Clin Pract (Dec 2010, Vol. 90 No. 3)	Efficacy of occasional self-monitoring of postprandial blood glucose levels in type 2 diabetic patients without insulin therapy	Shiraiwa T, Takahara M, Kaneto H, Miyatsuka T, Yamamoto K, Yoshiuchi K, Sakamoto K, Matsuoka T, Matsuhisa M, Yamasaki Y, Shimomura I	内分泌・代謝内科
Diabetes Care (Dec 2010, Vol. 33 No. 12)	The influence of glycemic control on the prognosis of Japanese patients undergoing percutaneous transluminal angioplasty for critical limb ischemia	Takahara M, Kaneto H, Iida O, Gorogawa S, Katakami N, Matsuoka TA, Ikeda M, Shimomura I	内分泌・代謝内科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biochem Biophys Res Commun (Jan 2011, Vol. 404 No. 1)	Effect of alogliptin, pioglitazone and glargine on pancreatic beta-cells in diabetic db/db mice	Kawashima S, Matsuoka TA, Kaneto H, Tochino Y, Kato K, Yamamoto K, Yamamoto T, Matsuhisa M, Shimomura I	内分泌・代謝内科
Diabetes Res Clin Pract (Jan 2011, Vol. 91 No. 1)	High prevalence of glucose intolerance in Japanese patients with peripheral arterial disease	Takahara M, Kaneto H, Iida O, Gorogawa S, Ikeda M	内分泌・代謝内科
Diabetes Care (Feb 2011, Vol. 34 No. 2)	Relationship between carotid intima-media thickness and the presence and extent of coronary stenosis in type 2 diabetic patients with carotid atherosclerosis but without history of coronary artery disease	Kasami R, Kaneto H, Katakami N, Sumitsuji S, Yamasaki K, Kuroda T, Tachibana K, Yasuda T, Kuroda A, Matsuoka T, Matsuhisa M, Shimomura I	内分泌・代謝内科
Atherosclerosis (Feb 2011, Vol. 214 No. 2)	Usefulness of lipoprotein ratios in assessing carotid atherosclerosis in Japanese type 2 diabetic patients	Katakami N, Kaneto H, Osonoi T, Saitou M, Takahara M, Sakamoto F, Yamamoto K, Yasuda T, Matsuoka T, Matsuhisa M, Yamasaki Y, Shimomura I	内分泌・代謝内科
Diabetes Care (Feb 2011, Vol. 34 No. 2)	Relationship between carotid intima-media thickness and the presence and extent of coronary stenosis in type 2 diabetic patients with carotid atherosclerosis but without history of coronary artery disease	Kasami R, Kaneto H, Katakami N, Sumitsuji S, Yamasaki K, Kuroda T, Tachibana K, Yasuda T, Kuroda A, Matsuoka T, Matsuhisa M, Shimomura I	内分泌・代謝内科
Atherosclerosis (Feb 2011, Vol. 214 No. 2)	Usefulness of lipoprotein ratios in assessing carotid atherosclerosis in Japanese type 2 diabetic patients	Katakami N, Kaneto H, Osonoi T, Saitou M, Takahara M, Sakamoto F, Yamamoto K, Yasuda T, Matsuoka T, Matsuhisa M, Yamasaki Y, Shimomura I	内分泌・代謝内科
Metabolism. 2010 Apr;59(4):520-6.	Dysregulation of glucose, insulin, triglyceride, blood pressure, and oxidative stress after an oral glucose tolerance test in men with abdominal obesity.	Nakatsuji H	内分泌・代謝内科
Atherosclerosis. 2010 Sep;212(1):243-5	The Senri Study II Group: Three-month treatment with pioglitazone reduces circulating levels of thiobarbituric acid-reacting substances, a marker of reactive oxidative stress, without change in body mass index, in Japanese patients with type 2 diabetes.	Nakatsuji H	内分泌・代謝内科
Diabetes Care. 2010 Aug;33(8):e110-111.	One-Year Reductions in Body Weight and Blood Pressure, but Not in Visceral Fat Accumulation and Adiponectin, Improve Urinary Albumin-to-Creatinine Ratio in Middle-Aged Japanese Men.	Nakatsuji H	内分泌・代謝内科
Ann Med. 2010 Oct 22.	Absolute value of visceral fat area measured on computed tomography scans and obesity-related cardiovascular risk factors in large-scale Japanese general population (the VACATION-J study).	Hiuge-Shimizu A	内分泌・代謝内科
Intern Med. 49:2467-2472, 2010	A case of adolescent hyperlipoproteinemia with xanthoma and acute pancreatitis, associated with decreased activities of lipoprotein lipase and hepatic triglyceride lipase.	Fujita K	内分泌・代謝内科
2011 Mar 28;18(3):240-7.	Nocturnal Falls of Adiponectin Levels in Sleep Apnea with Abdominal Obesity and Impact of Hypoxia-Induced Dysregulated Adiponectin Production in Obese Murine Mesenteric Adipose Tissue. J Atheroscler Thromb.	Nakagawa Y	内分泌・代謝内科
フジメディカル出版 24-29, 2010	尿酸と酸化ストレス。メタボリックシンドロームにおける高尿酸血症の意義とその管理	福原淳範	内分泌・代謝内科
Diabetes Frontier 21(4): 424-428, 2010	酸化ストレスとインスリン抵抗性	福原淳範	内分泌・代謝内科
BIO Clinica 2010年 7月臨時増刊号	脂肪組織の慢性炎症と貧血・酸化ストレス・redox state	福原淳範	内分泌・代謝内科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
細胞42巻11号 Page446- 449 (2010. 10)	内臓脂肪組織と皮下脂肪細胞の特性と違い	宮田佑吾	内分泌・代謝内科
Cancer Res. 70:8025-35, 2010.	Cell surface tetraspanin CD9 mediates chemoresistance in small cell lung cancer.	Kohmo S, Kijima T, Otani Y, et al.	呼吸器内科
Chest 137:1232-1235, 2010.	A 61-year-old man with a lung nodule and elevated serum IgG.	Iwasaki T, Tachibana I, Yoshida S, et al.	呼吸器内科
臨床免疫・アレルギー科 53:214-220, 2010.	マクロファージの活性化における CD9 (tetraspanin) の役割	立花 功、鈴木真優美、武田吉人、他	呼吸器内科
International Review of Asthma & COPD 12:25-31, 2010.	COPDの病態におけるSP-Dの役割.	柏 庸三、平田陽彦、木田 博、他	呼吸器内科
The LUNG perspective 18:291-8, 2010.	COPDにおけるテトラスパニンの役割.	武田吉人、鈴木真優美、立花 功.	呼吸器内科
Mod Rheumatol. (2010, 20:130-133)	Minimal influence of tocilizumab on IFN-gamma synthesis by tuberculosis antigens.	Ogata A, et al.	免疫・アレルギー内科
Rheumatology (2010, 49:824-826)	Treatment of a patient with remitting seronegative, symmetrical synovitis with pitting oedema with a humanized anti-interleukin-6 receptor antibody, tocilizumab.	Tanaka T, et al.	免疫・アレルギー内科
Ann Rheum Dis. (2010, 69:770-774)	iTRAQ-based proteomic identification of leucine-rich alpha-2 glycoprotein as a novel inflammatory biomarker in autoimmune diseases.	Serada S, et al.	免疫・アレルギー内科
J Rheumatol. (2010, 37:1075-1076)	Tocilizumab ameliorates clinical symptoms in polymyalgia rheumatica.	Hagihara K, et al.	免疫・アレルギー内科
Arthritis Care & Res. (2010, 62:745-746)	Reply to interleukin-6 as a target in spondyloarthritis.	Tanaka T, et al.	免疫・アレルギー内科
Blood (2010, 116:3099-3107)	Oligo-guanosine nucleotide induces neuropilin-1 internalization in endothelial cells and inhibits angiogenesis.	Narazaki M, et al.	免疫・アレルギー内科
Expert Rev Clin Immunol. (2010, 6:843-854)	Tocilizumab for the treatment of rheumatoid arthritis.	Tanaka T, et al.	免疫・アレルギー内科
Rheumatology (2010, 49:2408-2412)	The skin of patients with systemic sclerosis softened during the treatment with anti-IL-6 receptor antibody tocilizumab.	Shima Y, et al.	免疫・アレルギー内科
Ann Rheum Dis. (2011, 70:1164-1165)	Improvement of HbA1c during treatment with humanised anti-interleukin-6 receptor antibody, tocilizumab.	Ogata A, et al.	免疫・アレルギー内科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Mod Rheumatol. 2011 Jan 15. [Epub ahead of print]	Successful treatment of acquired hemophilia A, complicated by chronic GVHD, with tocilizumab.	Nishida S, et al.	免疫・アレルギー内科
Mod Rheumatol. 2011 Feb 9. [Epub ahead of print]	Tocilizumab, a humanized anti-interleukin-6 receptor antibody, ameliorated clinical symptoms and MRI findings of a patient with ankylosing spondylitis.	Shima Y, et al.	免疫・アレルギー内科
FEBS Lett. 2011 Mar 22. [Epub ahead of print]	Anti-interleukin-6 receptor antibody, tocilizumab, for the treatment of autoimmune diseases.	Tanaka T, et al.	免疫・アレルギー内科
Leuk. Res. (2010, 34: 986-990)	Prognostic significance of WT1 mRNA and anti-WT1 antibody levels in peripheral blood in patients with myelodysplastic syndromes.	Tamura H, et al.	免疫・アレルギー内科
Cancer Sci. (2010, 101: 848- 854)	High frequencies of less differentiated and more proliferative WT1-specific CD8+ T cells in bone marrow (BM) in tumor-bearing patients: an important role of BM as a secondary lymphoid organ.	Murao A, et al.	免疫・アレルギー内科
Cancer Sci. (2010, 101: 1089- 1092)	Sensitive immunohistochemical detection of WT1 protein in tumors with anti-WT1 antibody against WT1 235 peptide.	Ichinohazama R, et al.	免疫・アレルギー内科
Anticancer Res. (2010, 30: 2247-2254)	A clear correlation between WT1-specific Th response and clinical response in WT1 CTL epitope vaccination.	Fujiki F, et al.	免疫・アレルギー内科
Int. J. Med. Sci. (2010, 7: 72-81)	WT1 peptide vaccination in combination with imatinib therapy for a patient with CML in the chronic phase.	Narita M, et al.	免疫・アレルギー内科
Proc. Natl. Acad. Sci USA (PNAS) (2010, 107: 13824- 13829)	Induction of complete and molecular remissions in acute myeloid leukemia by Wilms' tumor 1 antigen-targeted dendritic cell vaccination.	Van Tendeloo V. F, et al.	免疫・アレルギー内科
Rheumatology (2011 in press)	Therapeutic effect of tocilizumab on two patients with polymyositis.	Narazaki M	免疫・アレルギー内科
Mod. Rheumatol (2011 in press)	Successful treatment of acquired hemophilia A, complicated by chronic GVHD, with tocilizumab.	Nishida S	免疫・アレルギー内科
Ann Rheum Dis. (2010 Oct 26 (Epub ahead of print))	Improvement of HbA1c during treatment with humanized anti-interleukin-6 receptor antibody, tocilizumab.	Ogata A	免疫・アレルギー内科
Rheumatology (12, 2408-2412, 2010)	The skin of patients with systemic sclerosis softened during the treatment with anti-IL-6 receptor antibody tocilizumab.	Shima Y	免疫・アレルギー内科
J. Rheumatol (37, 1075-1076, 2010)	Tocilizumab ameliorates clinical symptoms in polymyalgia rheumatica.	Hagihara K	免疫・アレルギー内科
Rheumatology (49, 824-826, 2010)	Treatment of a patient with remitting seronegative, symmetrical synovitis with pitting oedema with a humanized anti-interleukin-6 receptor antibody, tocilizumab.	Tanaka T	免疫・アレルギー内科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Mod. Rheumatol (20, 130-133, 2010)	Minimal influence of tocilizumab on IFN-g synthesis by tuberculosis antigens.	Ogata A	免疫・アレルギー内 科
むくみの診かた一症 例で読み解く浮腫診 療- (東京: 文光 堂; 82-88, 2010)	皮膚病変と下肢腫脹を認める35歳女性	萩原圭祐	免疫・アレルギー内 科
Progress in Medicine (30, 1649 ~1655, 2010)	高血圧症を合併するリウマチ膠原病患者における ロサルタンカリウム/ヒドロクロロチアジド配合 剤の有用性の解析	萩原圭祐	免疫・アレルギー内 科
The Journal of Biological Chemistry (2010年 10月, 285巻41号)	BCR-ABL but not JAK2 V617F inhibits erythropoiesis through the Ras signal by inducing p21CIP1/WAF1.	徳永正浩	血液・腫瘍内科
Journal of Immunological Methods (2010年7 月, 359巻1-2号)	Stromal cell-free conditions favorable for human B lymphopoiesis in culture.	一井倫子	血液・腫瘍内科
PLoS One (2010年9 月, 5巻9号)	The density of CD10 corresponds to commit ment and progression in the human B lymphoid lineage.	一井倫子	血液・腫瘍内科
Proc Natl Acad Sci USA (7月107巻)	Diabetes-accelerated memory dysfunction via cerebrovascular inflammation and A β deposition in an Alzheimer mouse model with diabetes.	Takeda S	老年・高血圧内科
Journal of Hepatology (6月52 巻6号)	Involvement of microsomal triglyceride transfer protein in nonalcoholic steatohepatitis in novel spontaneous mouse model.	Shindo N	老年・高血圧内科
Hypertension (8月 56巻)	Target Blood Pressure for Treatment of Isolated Systolic Hypertension in the Elderly. -Valsartan in Elderly Isolated Systolic Hypertension Study. -	Rakugi H	老年・高血圧内科
Hypertension (5月 56巻)	Nifedipine Inhibits Vascular Smooth Muscle Cell Dedifferentiation via Downregulation of Akt Signaling.	Kaimoto T	老年・高血圧内科
J Hypertens (1月29 巻)	Impact of concomitant diabetes and chronic kidney disease on preload-induced changes in left ventricular diastolic filling in hypertensive patients.	Iwashima Y	老年・高血圧内科
Diabetologia (2月 53巻2号)	Common variants at the GCK, GCKR, G6PC2- ABCB11, and MTNR1B loci are associated with fasting glucose in two Asian populations.	Takeuchi F	老年・高血圧内科
Phytomedicine (2010 Mar;17(3- 4):170-7. Epub 2010 Jan 22)	The fixed herbal drug composition "Saikokaryukotsuboreito" prevents bone loss with an association of serum IL-6 reductions in ovariectomized mice model.	Hattori T	漢方医学科
日本東洋医学会雑誌 (2011 印刷中)	リウマチ膠原病アレルギー患者に対するサフラン の効果: 血小板活性化マーカー-platelet factor 4 とbeta-thromboglobulinを用いた瘀血病態の考 察。	有光潤介	漢方医学科
移植 (45巻4号 2010年8月)	肺移植後急性期の血管合併症について	南正人	呼吸器外科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Journall of Thoracic oncolgy (vol. 5No9 2010年9月)	Japanese Lung Cancer Registry Study: First prospective enrollment of a large number of surgical and non-surgical cases in 2002	澤端章好	呼吸器外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgy (vl. 59No1 2010年1月)	Successful muscle prombage for directly non-closable extremely calcified bronchial stump	澤端章好	呼吸器外科
Journal of Thoracic Oncolgy (vol. 5No12 2010年12月)	Clinical effectiveness of boron neutron capture therapy for a malignant peripheral nerve sheath tumor in the mediastinum.	井上匡美	呼吸器外科
International journal of clinical and Experimental Pathology (vol13No6. 2010年6月)	Characterization of T cell maturity in thymic epithelial cell tumors from BUF/Mna spontaneous thymoma rats and BUF/Mna-Rnu/+ rats showing delayed thymomagenesis.	井上匡美	呼吸器外科
European journal of cardio-thoracic Surgy (vol. 37No6. 2010年6月)	Clinical outcome of resected solid-type small-sized c-stage IA non-small cell lung cancer.	井上匡美	呼吸器外科
日本呼吸器外科学会雑誌 (vol24. 2010年11月)	小型非小細胞肺癌に対する術式選択-縮小手術適応アルゴリズムの策定-	井上匡美	呼吸器外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgy (vol158No12. 2010年12月)	Radiation-induced osteosarcoma 17 years after mediastinal irradiation following surgical removal of thymoma	門田嘉久	呼吸器外科
Annals Thoracic Cardiovascular Surgy. (vol16No1. 2010年8月)	A case of micronodular pneumocyte hyperplasia diagnosed through surgical resection.	新谷康	呼吸器外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg. (vol158. 2010APR)	Predictive factors for postoperative acute exacerbation of interstitial pneumonia combined with lung cancer.	新谷康	呼吸器外科
Transplantation. (vol89No11. 2010年6月)	Local IL-17 production and a decrease in peripheral blood regulatory T cells in an animal model of bronchiolitis obliterans.	中桐伴行	呼吸器外科
General Thoracic Cardiovascular Surgy (vol158No12. 2010年12月)	Endvascular stent-graft implantation for a cecum of an aberrant artery from a systemic arterial supply to thebasal segment of the left pulmonary lobe.	中桐伴行	呼吸器外科
Molecular cancer research (vol19No1. 2010年1月)	The transmembrane adaptor Cbp/PAG1 controls the malignant potential of human non-small cell lung cancers that have c-Src upregulation	狩野孝	呼吸器外科
European Journal of Cardio-thoracic Surgy. (vol37No4. 2010. AP R)	Predictive value of B-type natriuretic peptide for postoperative atrial fibrillation following pulmonary resection for lung cancer.	野尻崇	呼吸器外科
The journal of Thoracic and Cardiovascular Surgy. (vol140No4. 2010年10月)	Predictive value of preoperative tissue Doppler echocardiographic analysis for postoperative atrial fibrillation after pulmonary resection for lung cancer.	野尻崇	呼吸器外科
Ann Surg Oncol	RGS16 is a marker for prognosis in colorectal cancer	Ishii H., Sekimoto M., Doki Y., Mori M.	消化器外科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Surg Oncol	TGM2 is a novel marker for prognosis and therapeutic target in colorectal cancer	Ishii H., Mimori K., Tanaka F., Hitora T., Tei M., Sekimoto M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Ann Surg Oncol	Abnormal expression of PFDN4 in colorectal cancer: a novel marker for prognosis.	Ishii H., Mimori K., Nishida N., Tokuoka M., Akita H., Sekimoto M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Ann Surg Oncol	FOXC2 is a Novel Prognostic Factor in Human Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Mimori K., Yokobori T., Sudo T., Tanaka F., Shibata K., Ishii H., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Ann Surg Oncol	OSNA-based Novel Molecular Testing for Lymph Node Metastases in Colorectal Cancer Patients: Results from a Multicenter Clinical Performance Study in Japan.	Sekimoto M., Oya M., Yamamoto N., Konishi F., Sasaki J., Yamada S., Taniyama K., Tomiyama H., Tsujimoto M., Akamatsu H., Yanagisawa S., Sakakura C., Kato Y., Matsuura M.	消化器外科
Br J Cancer	Abnormal expression of TRIB3 in colorectal cancer: a novel marker for prognosis	Ishii H., Mimori K., Takatsuno Y., Kim H., Hirose H., Sekimoto M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Br J Cancer	Insulin-like growth factor-binding protein 7 alters the sensitivity to interferon-based anticancer therapy in hepatocellular carcinoma cells.	Eguchi H., Wada H., Noda T., Murakami M., Kobayashi S., Marubashi S., Takeda Y., Tanemura M., Umeshita K., Doki Y., Mori M., Nagano H.	消化器外科
Br J Cancer	MicroRNA-21 induces resistance to the anti-tumor effect of interferon- α /5-fluorouracil in hepatocellular carcinoma cells.	Eguchi H., Nagano H., Wada H., Tomokuni A., Kobayashi S., Marubashi S., Takeda Y., Tanemura M., Umeshita K., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Case Rep Gastroenterol	Stoma-Closure-Induced Fulminant Pseudomembranous Colitis Recovered by Adjunctive Intracolonic Vancomycin with Postural Change.	Takahashi K., Yamaguchi T., Matsumoto H., Nakano D., Koizumi K.	消化器外科
Digestion	Malignancy in Crohn's disease: incidence and clinical characteristics in Japan	Ohno Y., Nakajima K., Kai Y., Iijima H., Sekimoto M., Nishida T., Nexu R., Ito T., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Hepato-gastroenterology	Fibrin sealant with PGA felt for prevention of bile leakage after liver resection.	Nagano H., Marubashi S., Wada H., Eguchi H., Takeda Y., Tanemura M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Int J Colorectal Dis	Laparoscopic reoperation of anastomotic leakage after a laparoscopic low anterior resection of the rectum	Takemasa I., Mizushima T., Ikeda M., Yamamoto H., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Int J Oncol	TDGF1 is a novel predictive marker for metachronous metastasis of colorectal cancer	Ishii H., Mimori K., Sekimoto M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Int J Oncol	Synergistic antitumor effect of interferon- β with gemcitabine in interferon- α -non-responsive pancreatic cancer cells.	Eguchi H., Wada H., Tomokuni A., Kobayashi S., Marubashi S., Takeda Y., Tanemura M., Umeshita K., Mori M., Doki Y., Nagano H.	消化器外科
J Clin Invest	CD13 is a therapeutic target in human liver cancer stem cells	Ishii H., Mimori K., Tanaka F., Ohkuma M., Kim M., Akita H., Takiuchi D., Hatano H., Nagano H., Barnard GF., Doki Y., Mori M.	消化器外科
J Clin Pharmacol	Evaluation of a new immunoassay for therapeutic drug monitoring of tacrolimus in adult liver transplant recipients	Nagano H., Kobayashi S., Eguchi H., Takeda Y., Tanemura M., Umeshita K., Monden M., Doki Y., Mori M.	消化器外科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Surg Oncol	Multidetector computed tomography for preoperative prediction of postsurgical prognosis of patients with extrahepatic biliary cancer	Nagano H., Marubashi S., Wada H., Eguchi H., Takeda Y., Tanemura M., Kim T., Doki Y., Mori M.	消化器外科
J Surg Oncol	Effects of preceding interferon therapy on outcome after surgery for hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	Nagano H., Eguchi H., Kobayashi S., Marubashi S., Wada H., Tanemura M., Umeshita K., Hiramatsu N., Takehara T., Doki Y., Mori M.	消化器外科
J Surg Oncol	SCRN1 is a novel marker for prognosis in colorectal cancer.	Ishii H., Mimori K., Sekimoto M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Minim Invasive Ther Allied Technol	Single incision laparoscopic (SILS) hepatectomy for hepatocellular carcinoma: Initial experience in a Japanese patient.	Nagano H., Marubashi S., Wada H., Eguchi H., Takeda Y., Tanemura M., Sekimoto M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Oncol Rep	ATP11A is a novel predictive marker for metachronous metastasis of colorectal cancer	Ishii H., Mimori K., Tanaka F., Kim H., Nagai K., Uemura M., Sekimoto M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Oncol Rep	Utility of 2-[18F] fluoro-2-deoxy-D-glucose positron emission tomography in differential diagnosis of benign and malignant intraductal papillary-mucinous neoplasm of the pancreas.	Takeda Y., Tatsumi M., Kim T., Kobayashi S., Marubashi S., Eguchi H., Tanemura M., Kitagawa T., Nagano H., Umeshita K., Wakasa K., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Proc Natl Acad Sci	Defined factors induced reprogramming of gastrointestinal cancer cells	Ishii H., Nagai K., Hoshino H., Mimori K., Tanaka F., Nagano H., Sekimoto M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Surg Endosc	Feasibility of end-to-anterior wall anastomosis in conversion of the double-stapling technique during laparoscopically assisted surgery	Sekimoto M., Uemura M., Miyoshi N., Haraguchi N., Takemasa I., Nomura M., Mizusgima T., Ikeda M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Surg Endosc	Laparoscopic lymph node dissection around the inferior mesenteric artery with preservation of the left colic artery.	Takemasa I., Mizushima T., Ikeda M., Yamamoto H., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Surgery Today	The properties and identification of cancer stem cells.	Ishii H., Sekimoto M., Haraguchi N., Mori M.	消化器外科
Surgery Today	Primary colorectal signet-ring cell carcinoma: Clinicopathological features and postoperative survival.	Nomura M., Fujii M., Akamatsu H., Mizuno H., Tominaga H., Hasegawa J., Nakajima K., Yasumasa K., Yoshikawa M., Nishida T.	消化器外科
WJGS	Minute liver metastases from a rectal carcinoid: A case report and review	Hemmi H., Gu JY., Sekimoto M., Doki Y., Mori M.	消化器外科
World J Gastroenterol	Fresh frozen plasma transfusion does not affect outcomes following hepatic resection for hepatocellular carcinoma.	Wada H., Marubashi S., Kobayashi S., Eguchi H., Takeda Y., Tanemura M., Noda T., Umeshita K., Doki Y., Mori M., Nagano H.	消化器外科
World J Gastroenterol	Effect of autologous blood transfusion on avoidance of homologous blood transfusion and long-term prognosis in surgery for hepatocellular carcinoma.	Eguchi H., Marubashi S., Wada H., Kobayashi S., Tanemura M., Umeshita K., Doki Y., Mori M., Nagano H.	消化器外科
YMJ	Perspective beyond cancer genomics: bioenergetics of cancer stem cells	Doki Y., Mori M.	消化器外科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Surg	Prognostic value of endoscopic biopsy findings after induction chemoradiotherapy with and without surgery for esophageal cancer.	Yamasaki M., Takiguchi S., Nakajima K., Fujiwara Y., Konishi K., Morii E., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Ann Surg Oncol	p53 Mutation status predicts pathological response to chemoradiotherapy in locally advanced esophageal cancer.	Yamasaki M., Miyata H., Yoshioka S., Takiguchi S., Fujiwara Y., Nakajima K., Nishida T., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Ann Surg Oncol	p53 Genotype Predicts Response to Chemotherapy in Patients with Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus.	Miyata H., Fujiwara Y., Takiguchi S., Nakajima K., Nishida T., Yasuda T., Matsumiya J., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Ann Surg Oncol	Survival factors in patients with recurrence after curative resection of esophageal squamous cell carcinomas.	Yamasaki M., Kurokawa Y., Takiguchi S., Nakajima K., Fujiwara Y., Konishi K., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Anticancer Research	Feasibility study of S-1 and intraperitoneal docetaxel combination chemotherapy for gastric cancer with peritoneal dissemination.	Nishida T., Takiguchi S., Nakajima K., Miyata H., Yamasaki M., Yamamoto K., Moon JH., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Br J Cancer	Role of multidrug resistance protein 2 (MRP2) in chemoresistance and clinical outcome in esophageal squamous cell carcinoma.	Makino T., Masuzawa T., Kurokawa Y., Miyata H., Takiguchi S., Nakajima K., Fujiwara Y., Matsuura N., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Brit J Surg	Randomized controlled trials comparing postoperative changes in body weight, symptoms and respiratory function after extended surgery in gastric cancer patients.	Sasako M., Sano T., Shibata T., Ito S., Nashimoto A., Kurita A., Kinoshita T.	消化器外科
Cancer Res	Increased immunogenicity of tumor-associated antigen, mucin 1, engineered to express alpha-gal epitopes: a novel approach to immunotherapy in pancreatic cancer.	Tanemura M., Miyoshi E., Nagano H., Machida T., Ohmura Y., Kobayashi S., Marubashi S., Eguchi H., Takeda Y., Ito T., Mori M., Doki Y., Sawa Y.	消化器外科
Dig Surg	A thick pancreas is a risk factor for pancreatic fistula after a distal pancreatectomy: Selection of the closure technique according to the thickness.	Nagano H., Tanemura M., Takeda Y., Marubashi S., Kobayashi S., Wada H., Umeshita K., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Gastroenterology.	Effects of ghrelin administration after total gastrectomy: a prospective, randomized, placebo-controlled phase II study.	Takiguchi S., Okada K., Yamamoto K., Yamasaki M., Miyata H., Nakajima K., Fujiwara Y., Hosoda H., Kangawa K., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Hepato-Gastroenterology	Long-term complete response of unresectable liver metastases from colorectal cancer.	Ohue M., Noura S., Seki Y., Gotoh K., Motoori M., Kishi K., Yamada T., Miyashiro I., Ohigashi H., Yano M., Ishikawa O.	消化器外科
Int J Clin Oncol	Abdominal soft tissue sarcoma: a multicenter retrospective study.	Morii E., Takahashi T., Souma Y., Nakajima K., Doki Y., Nishida T.	消化器外科
J Clin Gastroenterol	Survival analysis of patients with duodenal gastrointestinal stromal tumors.	Kurokawa Y., Hirao M., Fujitani K., Iwasa Y., Mano M., Nakamori S., Tsujinaka T.	消化器外科
Oncol Rep	Pre- and post-therapy nodal status equally affects survival of patients with oesophageal squamous cell carcinoma receiving preoperative chemoradiation.	Yamasaki M., Takiguchi S., Nakajima K., Fujiwara Y., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Surg Endosc	The role of assisted laparoscopic surgery in subtotal/total colectomy for crohn's colitis.	Nezu R., Hirota M., Nishida T.	消化器外科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Surg Today	Hand-Assisted Laparoscopic Restorative Proctocolectomy for Ulcerative Colitis: The Optimization of Instrumentation Toward Standardization	Nezu R., Nomura M., Ito T., Sawa Y., Nishida T.	消化器外科
Surgery	Randomized phase II study of clinical effects of ghrelin after esophagectomy with gastric tube reconstruction.	Takiguchi S., Miyata H., Adachi S., Hiura Y., Yamasaki M., Nakajima K., Fujiwara Y., Mori M., Kangawa K., Doki Y.	消化器外科
Surgery	The utility of pre-operative peritoneal lavage examination in serosa-invading gastric cancer patients.	Fujiwara Y., Takiguchi S., Miyata H., Yamasaki M., Nakajima K., Nishida T., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Surgery	Utility of response evaluation to neo-adjuvant chemotherapy by (18)F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography in locally advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Miyata H., Yamasaki M., Fujiwara Y., Takiguchi S., Nakajima K., Higuchi I., Hatazawa J., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Surgery	Preoperative T staging of gastric cancer by Multi-Detector Row Computed Tomography.	Fujiwara Y., Takiguchi S., Tsuboyama T., Kim T., Nishijima Y., Yamasaki M., Miyata H., Nakajima K., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Transplantation	Combined Transplantation of Pancreatic Islets and Adipose Tissue-Derived Stem Cells Enhances the Survival and Insulin Function of Islet Grafts in Diabetic Mice.	Tanemura M., Kawaguchi N., Machida T., Tanida T., Deguchi T., Wada H., Kobayashi S., Marubashi S., Eguchi H., Takeda Y., Matsuura N., Ito T., Nagano H., Doki Y., Mori M.	消化器外科
Gastroenterology	Effects of ghrelin administration after total gastrectomy: A prospective randomized placebo-controlled phase II study	Takiguchi S., Okada K., Yamamoto K., Yamasaki M., Miyata H., Nakajima K., Fujiwara Y., Hosoda H., Kangawa K., Mori M., Doki Y.	消化器外科
Ann Thoracic Surg (2010 Jun;89(6):2019-22.)	Three-stage reconstruction of the airway and alimentary tract in a case of tracheal agenesis.	Usui N	小児外科
J Pediatr Surg (2010 Feb;45(2):387-92.)	Increased expression of the hedgehog signaling pathway in pediatric solid malignancies.	Oue T	小児外科
Surg Today (2010 Dec;40(12):1112-22)	Current status of intestinal transplantation	Ueno T	小児外科
Pediatr Surg Int (2010 Feb;26(2):179-85.)	In vitro construction of scaffold-free cylindrical cartilage using cell sheet-based tissue engineering	Tani G	小児外科
Molecular Medicine Reports (2010 Jan-Feb;3(1):133-9)	Forskolin, a hedgehog signal inhibitor, inhibits cell proliferation and induces apoptosis in pediatric tumor cell lines	Yamanaka H	小児外科
Clinical Orthopaedics and Related Research (468:1088-1095, 2010Apr.)	Tailor-made surgical guide reduces incidence of outliers of cup placement.	Hananouchi, T.	整形外科
International Journal of Medical Robotics and Computer Assisted Surgery (6:186-	Corrective osteotomy using customized hydroxyapatite implants prepared by preoperative computer simulation.	Oka, K.	整形外科
Journal of Orthopaedic Science (15:560-568, 2010Jul.)	Novel fully interconnected porous hydroxyapatite ceramic in surgical treatment of benign bone tumor.	Tamai, N.	整形外科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Arthroplasty (25:970-976, 2010Sep.)	Is minimally invasive surgery-total knee arthroplasty truly less invasive than standard total knee arthroplasty? A quantitative evaluation.	Tsuji, S.	整形外科
Br J Dermatol (163 (1) : 128-137, 2010)	Effects of a 3-hydroxy-3-methylglutaryl coenzyme A reductase inhibitor and low-density lipoprotein on proliferation and migration of keratinocytes.	Abd El-Latif MA	皮膚科
J Exp Med (18 : 207 (1) : 189-206, 2010)	CD207+ CD103+ dermal dendritic cells cross-present keratinocyte-derived antigens irrespective of the presence of Langerhans cells.	Azukizawa H	皮膚科
J Invest Dermatol (130 (6) : 1581-1589, 2010)	Antigen-specific CD4 cells assist CD8 T effector cells in eliminating keratinocytes.	Azukizawa H	皮膚科
J Invest Dermatol (130 (7) : 1841-1848, 2010)	Antigen-specific CD8 T cells can eliminate antigen-bearing keratinocytes with clonogenic potential via an IFN-gamma-dependent mechanism.	Azukizawa H	皮膚科
J Dermatol (37 (2) : 171-174, 2010)	Good's syndrome (hypogammaglobulinemia with thymoma) presenting intractable opportunistic infections and hyperkeratotic lichen planus.	Hanafusa T	皮膚科
J Dermatol (37 : 1-3, 2010) (published online)	Clinical implications of leukocytapheresis using a centrifugal cell separator for steroid-resistant pyoderma gangrenosum associated with inflammatory bowel disease.	Hanafusa T	皮膚科
Am J Pathol (176 (1) : 227-237, 2010)	Dendritic cells express hematopoietic prostaglandin D synthase and function as a source of prostaglandin D2 in the skin.	Igawa K	皮膚科
J Dermatol (in press)	An evaluation of the clinical safety and efficacy of a newly developed 308 nm excimer lamp for vitiligo vulgaris.	Itoi S	皮膚科
Br J Dermatol (163 : 704-710, 2010)	Clinical and genetic features of 20 Japanese patients with vascular-type Ehlers-Danlos syndrome.	Wataya-Kaneda M	皮膚科
Allergology International (59 (4) : 425-428, 2010)	A case of juvenile dermatomyositis manifesting inflammatory epidermal nevus-like skin lesions : Unrecognized cutaneous manifestation of blaschkitis ?	Katayama I	皮膚科
Mod Rheumatol (20 (2) : 123-129, 2010)	Annular erythema associated with Sjogren's syndrome : review of the literature on the management and clinical analysis of skin lesions.	Katayama I.	皮膚科
J Dermatol (37 (12) : 1063-1065, 2010)	Superimposed linear psoriasis.	Kira M.	皮膚科
Mod Rheumatol (21 (1) : 101-5 (2011)	A case of disseminated DLE complicated by atopic dermatitis and Sjogren's syndrome : link between hypohidrosis and skin manifestations.	Matsui S	皮膚科
Allergol Int. (59 (4) : 345-354, 2010)	Impact of sedative and non-sedative antihistamines on the impaired productivity and quality of life in patients with pruritic skin diseases.	Murota H	皮膚科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Rheumatology (Oxford) (49 (12) : 2408-2412, 2010)	The skin of patients with systemic sclerosis softened during the treatment with anti-IL-6 receptor antibody tocilizumab.	Murota H	皮膚科
Eur J Dermatol (20 (3) : 410-411, 2010)	Showering reduces atopic dermatitis in elementary school students.	Murota H	皮膚科
Allergy (65 (7) : 929-930, 2010)	Effects of nonsedative antihistamines on productivity of patients with pruritic skin diseases.	Murota H	皮膚科
Int Arch Allergy Immunol (153 (2) : 121-132, 2010)	Olopatadine hydrochloride improves dermatitis score and inhibits scratch behavior in NC/Nga mice.	Murota H	皮膚科
J Immunology (184 : 1499-1506, 2010)	Role of Sema4D-plexin-B1 interactions in the central nervous system for pathogenesis of experimental autoimmune encephalomyelitis.	Nakagawa Y	皮膚科
Nature Immunology (11 : 594-600, 2010)	Semaphorin guide the entry of dendritic cells into the lymphatics by activating myosin II.	Nakagawa Y	皮膚科
J Dermatol (37 (8) : 735-739, 2010)	Pilomatrix Carcinoma Arising from Pilomatricoma after 10-year Senescent Period : Immunohistochemical analysis.	Nishioka M	皮膚科
Tissue Eng Part A (16 : 1263-1270, 2010)	Controlled release of bone morphogenetic protein-2 enhances recruitment of osteogenic progenitor cells for de novo generation of bone tissue.	Tamai K	皮膚科
PLoS One, 5 : e10566, 2010	Serum anti-BPAG1 auto-antibody is a novel marker for human melanoma.	Tamai K	皮膚科
J Dermatol Sci (60 (3) : 203-205, 2010)	Relation between the expression levels of the POU transcription factors Skn-1a and Skn-1n and keratinocyte differentiation.	Tamai K	皮膚科
Exp Dermatol (19 (1) : 38-43, 2010)	Tumor necrosis factor-alpha processing inhibitor-1 inhibits skin fibrosis in a bleomycin-induced murine model of scleroderma.	Terao M	皮膚科
Br J Dermatol (163 (4) : 881-884, 2010)	Cutaneous symptoms in a patient with cardio-facio-cutaneous syndrome and increased ERK phosphorylation in skin fibroblasts.	Terao M	皮膚科
2010 Sep; 67 (3 Suppl Operative) : ons206-12	Spinal cord stimulation for central poststroke pain.	モハメド アリ	脳神経外科
Acta Neurochir (Wien) 2011 Feb; 153 (2) : 437-8	Importance of distinction between paroxysmal and continuous patterns of pain during evaluation of pain after brachial plexus injury.	モハメド アリ	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo) 2010; 50 (12) : 1079-83.	Posttransplant lymphoproliferative disorders of the central nervous system after kidney transplantation: single center experience over 40 years. Two case reports	有田 英之	脳神経外科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Clin Oncol 2010 May;40 (5) :395-403	Effects of concomitant temozolomide and radiation therapies on WT1-specific T-cells in malignant glioma.	千葉 泰良	脳神経外科
Brain Tumor Pathol 2010 Apr;27 (1) :29-34	Prognostic value of WT1 protein expression level and MIB-1 staining index as predictor of response to WT1 immunotherapy in glioblastoma patients.	千葉 泰良	脳神経外科
J Neurooncol 2011 Jul;103 (3) :785-90	Primary intracranial leiomyosarcoma in an immunocompetent patient: case report.	藤本 康倫	脳神経外科
J Neurooncol 2010 May;97 (3) :445-50.	A surgically treated case of Lhermitte-Duclos disease with a precise natural history and high uptake of FDG on PET.	後藤 雄子	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo) 2010;50 (3) :246-50.	Immunohistochemical study of multiple inflammatory pseudotumors with both brain and spinal cord involvement-case report	石原 正浩	脳神経外科
Neuroradiology 2011 Mar 24. [Epub ahead of print]	Intracranial hemorrhage after intra-arterial administration of fasudil for treatment of cerebral vasospasm following subarachnoid hemorrhage: A serious adverse event	石原 正浩	脳神経外科
J Neurooncol 2010 Feb;96 (3) :409-15.	Diffusion tensor based tumor infiltration index cannot discriminate vasogenic edema from tumor-infiltrated edema	木下 学	脳神経外科
J Neurooncol 2010 Aug;99 (1) :95-101	Immunohistological profiling by B-cell differentiation status of primary central nervous system lymphoma treated by high-dose methotrexate chemotherapy.	木下 学	脳神経外科
Eur Spine J 2010 Jul;19 Suppl 2:S140-3.	Incarcerated herniation of the cervical spinal cord after laminectomy for an ossification of the yellow ligament.	大西 諭一郎	脳神経外科
Brain Tumor Pathol 2011 Feb;28 (1) :77-81	Histopathological study of spinal meningioma originating from the arachnoid villi.	大西 諭一郎	脳神経外科
World Neurosurg 2010 Jun;73 (6) :701-4.	Withstand pressure of a simple fibrin glue sealant: experimental study of mimicked sellar reconstruction in extended transsphenoidal surgery.	押野 信	脳神経外科
Functional neurosurgery 2010 49:162-165	Training-free control of robot by BMI using physiological characteristics of ECoG	柳澤 琢史	脳神経外科
J Neurosurg. 2011 Jun;114 (6) :1715-22.	Real-time control of a prosthetic hand using human electrocorticography signals.	柳澤 琢史	脳神経外科
Minimally Invasive Neurosurgery 2010 Apr;53 (2) :77-9	Removal of a cavernous hemangioma in the orbital apex via the endoscopic transnasal approach: a case report	芳村 憲泰	脳神経外科
J Cereb Blood Flow Metab 2011 Feb;31 (2) :580-92.	Distinct spatiotemporal patterns of spreading depolarizations during early infarct evolution: evidence from real-time imaging.	熊谷 哲也	脳神経外科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Neuroimage 2011 Jan 1;54(1):560-7	Frequency-dependent spatiotemporal distribution of cerebral oscillatory changes during silent reading: a magnetoencephalographic group analysis.	後藤 哲	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica2011;51(3):250-2.	Primary Clival Mucocele -Case Report-	藤本 康倫	脳神経外科
AJNR Am J Neuroradiol. 2011 Feb 24. [Epub ahead of print]	Quantification of cerebral artery motion during the cardiac cycle.	西田 武生	脳神経外科
Brain Stimul. 2011 Jan;4(1):28-37	Quantitative analysis of phosphenes induced by navigation-guided repetitive transcranial magnetic stimulation.	谷 直樹	脳神経外科
J Neurosurg. 112:528-538	Language dominance and mapping based on neuromagnetic oscillatory changes: comparison with invasive procedures.	平田 雅之	脳神経外科
J Neurosurg.112:528-538 .	Language dominance and mapping based on neuromagnetic oscillatory changes: comparison with invasive procedures.	平田 雅之	脳神経外科
Pain Research25(1):1-8	The mechonism of repetitive trans cranial magnetic stimulation for central post-stroke pain	細見 晃一	脳神経外科
Functional Neurosurgery 48:139-146	Efficacy of spinal cord stimulation for central post-stroke pain	モハメド アリ	脳神経外科
Neurosurgery (in press)	Spinal Cord Stimulation for Central Post-stroke Pain	モハメド アリ	脳神経外科
Epilepsy Res. 87:12-17	Movement induces suppression of interictal spikes in sensorimotor neocortical epilepsy.	柳澤 琢史	脳神経外科
Neuroimage 45:1099-1106	Neural decoding using gyral and intrasulcal electrocorticograms.	柳澤 琢史	脳神経外科
Minimally Invasive Neurosurgery 53: 77-9	Removal of a Cavernous Hemangioma in the Orbital Apex via the Endoscopic Transnasal Approach: A case report	芳村 憲泰	脳神経外科
日本集中治療医学会 雑誌(第17巻第2号、 2010年4月)	Refeeding syndromeにたこつぼ型心筋症を合併したanorexia nervosaの1例	松本 充弘	麻酔科、集中治療部
Cancer Science 101(10):2171-8, 2010	Early reduction of glucose uptake after cisplatin treatment is a marker of cisplatin sensitivity in ovarian cancer	Egawa-Takata T	産科・婦人科
Anticancer Res 30:4347-4352, 2010	Disease-free interval after primary treatment predicts prognosis of recurrent endometrial carcinoma	Ueda Y	産科・婦人科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Obstet Gynecol Res 36:411-413, 2010	Cervical insufficiency following cesarean delivery after prolonged second stage of labor:experiences of two cases	Koyama S	産科・婦人科
Int J Clin Oncol. 15(4):406-12, 2010	Endometrial carcinoma: better prognosis for asymptomatic recurrences than for symptomatic cases found by routine follow-up.	Ueda Y	産科・婦人科
Int J Gynecol Cancer. 20(5):834-40, 2010	Prognostic factors for survival in patients with recurrent cervical cancer previously treated with radiotherapy.	Mabuchi S	産科・婦人科
Mol Cancer Ther. 9(8):2411-22, 2010	Vascular endothelial growth factor is a promising therapeutic target for the treatment of clear cell carcinoma of the ovary.	Mabuchi S	産科・婦人科
Prenatal Diagnosis 30(10):1005-6, 2010	Prenatal diagnosis of polysplenia syndrome associated with increased nuchal translucency	Koyama S	産科・婦人科
Ann Surg Oncol 17:1111-1117, 2010	Endometrial carcinoma with extra-abdominal metastasis: improved prognosis following cytoreductive surgery.	Ueda Y	産科・婦人科
Gynecologic and Obstetric Investigation 69:224-232, 2010	Concurrent weekly nedaplatin, external beam radiotherapy and high-dose rate brachytherapy in patients with FIGO stage IIIB cervical cancer: A comparison with a cohort treated by radiotherapy alone	Mabuchi S	産科・婦人科
Magnetic Resonance in Medical Sciences 2011 (in press)	3D-MR cisternography for the identification of distal dural rings;Comparison of 3D-CISS (Constructive Interference in Steady State) and 3D-SPACE (Sampling Perfection with Application optimized Contrasts using different flip angle Evolutions)	Watanabe Y,	放射線診断科
British Journal of Radiology (in press)	Bilateral persistent hypoglossal arteries: magnetic resonance imaging findings.	Takahashi H.	放射線診断科
Japanese Journal of Radiology (in press)	Variation in supratentorial cerebrospinal fluid production rate in one day: measurement by nontriggered phase-contrast magnetic resonance imaging.	Takahashi H.	放射線診断科
Br J Radiol. 2010 Nov 16 [Epub ahead of print]	Image quality of multiplanar reconstruction of pulmonary CT scans using adaptive statistical iterative reconstruction.	Honda O.	放射線診断科
Acad Radiol. 17: 1259-1266, 2010	Adaptive statistical iterative reconstruction technique for pulmonary CT: image quality of the cadaveric lung on standard- and reduced-dose CT.	Yanagawa M.	放射線診断科
Radiology. 255: 944-954, 2010	Multidetector CT of the lung: image quality with garnet-based detectors.	Yanagawa M.	放射線診断科
Acad Radiol. 17: 772-778, 2010	CT-guided percutaneous cutting needle biopsy of thymic epithelial tumors comparison to the accuracy of computed tomographic diagnosis according to the world health organization classification.	Yanagawa M.	放射線診断科
Lung Cancer. 70: 286-294, 2010	Automated assessment of malignant degree of small peripheral adenocarcinomas using volumetric CT data: Correlation with pathologic prognostic factors.	Yanagawa M.	放射線診断科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
European Journal of Radiology 73 (2010) 125-130	Differential diagnosis between metastatic tumors and nonsolid benign lesions of the liver using ferucarbotran-enhanced MR imaging. European Journal of Radiology.	Higashihara H,	放射線診断科
Radiology. November 2, 2010 [Published online before print].	Uterine Tumors: Comparison of 3D versus 2D T2-weighted Turbo Spin-Echo MR Imaging at 3.0 T - Initial Experience.	Hori M.	放射線診断科
J Vasc Interv Radiol 21(6) : 877-81. 2010.	In vitro characterization of cisplatin-loaded superabsorbent polymer microspheres designed for chemoembolization.	Maeda N,	放射線診断科
J Comput Assist Tomogr. 34(5) :725-731, 2010	Comparative Study of the Diagnostic Ability of Magnetic Resonance Imaging and Multidetector Row Computed Tomography for Anomalous Pancreaticobiliary Ductal Junction.	Nakamoto A,	放射線診断科
Eur J Radiol. 2010 [Epub ahead of print]	Abdominal multi-detector row CT: Effectiveness of determining contrast medium dose on basis of body surface area.	Onishi H,	放射線診断科
J Radiat Res, 51:543-552	What is the optimum minimum segment size used in step and shoot IMRT for prostate cancer?	Takahashi Y, Koizumi M, et al	放射線治療科
Int J Radiat Oncol Biol Phys. 77:758-764	Rectal dose and source strength of the high-dose-rate iridium-192 both affect late rectal bleeding after intracavitary radiation therapy for uterine cervical carcinoma.	Isohashi F, Yoshioka Y, et al	放射線治療科
Surgery. 2010 Nov;148(5) :908-18.	Utility of response evaluation to neo-adjuvant chemotherapy by (18)F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography in locally advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Makino T, Miyata H, Yamasaki M, Fujiwara Y, Takiguchi S, Nakajima K, Higuchi I, Hatazawa J, Mori M, Doki Y.	核医学診療科
Phys Med Biol. 2010 Jul 7;55(13) :3813-26.	A compact and high sensitivity positron detector using dual-layer thin GSO scintillators for a small animal PET blood sampling system.	Yamamoto S, Imaizumi M, Shimosegawa E, Kanai Y, Sakamoto Y, Minato K, Shimizu K, Senda M, Hatazawa J.	核医学診療科
Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2010 Oct;37(10) :1943-9.	Biodistribution and radiation dosimetry of a positron emission tomographic ligand, (18)F-SP203, to image metabotropic glutamate subtype 5 receptors in humans.	Kimura Y, Siméon FG, Hatazawa J, Mozley PD, Pike VW, Innis RB, Fujita M.	核医学診療科
J. Nucl. Instr. Meth.-A. Volume 622, Issue 1, 1 October 2010, Pages 261-269	Development of a compact and high spatial resolution gamma camera system using LaBr3 (Ce).	Yamamoto S, Imaizumi M, Shimosegawa E, Hatazawa	核医学診療科
Phys Med Biol. 2010 Oct 7;55(19) :5817-31.	Development of a Si-PM-based high-resolution PET system for small animals.	Yamamoto S, Imaizumi M, Watabe T, Watabe H, Kanai Y, Shimosegawa E, Hatazawa J.	核医学診療科
J Neurol Sci. 2010 Nov 15;298(1-2) :35-41. Epub 2010 Sep 22.	Global cerebral hypoperfusion in preclinical stage of idiopathic normal pressure hydrocephalus.	Takaya M, Kazui H, Tokunaga H, Yoshida T, Kito Y, Wada T, Nomura K, Shimosegawa E, Hatazawa J, Takeda M.	核医学診療科
Ann Nucl Med. 2010 Nov;24(9) :629-38. Epub 2010 Oct 16.	Nuclear neuroimaging in acute and subacute ischemic stroke.	Oku N, Kashiwagi T, Hatazawa J.	核医学診療科
J Surg Oncol. 2011 Mar 1;103(3) :223-9.	Diagnostic value of FDG-PET for lymph node metastasis and outcome of surgery for biliary cancer.	Kobayashi S, Nagano H, Hoshino H, Wada H, Marubashi S, Eguchi H, Takeda Y, Tanemura M, Kim T, Shimosegawa E, Hatazawa J, Doki Y, Mori M.	核医学診療科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Psychogeriatrics. 2011 Mar;11(1):40-5.	Protein synthesis in the posterior cingulate cortex in Alzheimer's disease.	Yoshida T, Kazui H, Tokunaga H, Kito Y, Kubo Y, Kimura N, Morihara T, Shimosegawa E, Hatazawa J, Takeda M.	核医学診療科
Endocrine Journal (2010年、57巻、11号)	Characterization of Thr-354 in the human sodium/iodide symporter (NIS) by site-directed mutagenesis.	巽 圭太	臨床検査部
Virch Arch 456: 269-276, 2010	Polymorphous lymphoproliferative disorder	Nakamichi N, et al	病理部
Am J Pathol 177:500-505, 2010	Tumorigenic role of Hodgkin cells in Hodgkin lymphoma.	Ikeda J et al	病理部
J Med Virol 83:317-321, 2011	EBV-positive rate in diffuse large B-cell lymphoma	Wada N, et al	病理部
中山書店、2010	がん診療指針のための病理診断プラクティス	青笹克之編	病理部
Methods Inf Med 2010; 49(4):360-370	Development of a System that Generates Structured Reports for Chest X-ray Radiography.	Hasegawa Y	医療情報部
Stud Health Technol Inform. 2010; 160(Pt 1):91-95	A Scheme for Assuring Lifelong Readability in Computer Based Medical Records.	Matsumura Y	医療情報部
Methods Inf Med. 2011; 50(2): 150-157	Development of ICF Code Selection Tools for Mental Health Care	Manabe S	医療情報部
Resuscitation (82: 69-73, 2011)	Effective of the new 'Mobile AED Map' to find and retrieve an AED: A randomised controlled trial	酒井智彦 外	高度救命救急センター
Journal of Hospital Infection (78: 97-101, 2011)	Pre-emptive contact precautions for intubated patients reduced healthcare-associated methicillin-resistant Staphylococcus aureus transmission and infection in an intensive care unit	松嶋麻子 外	高度救命救急センター
Dig Dis Sci (56:1171-1177, 2011)	Altered Gut Flora Are Associated with Septic Complications and Death in Critically Ill Patients with Systemic Inflammatory Response Syndrome	清水健太郎 外	高度救命救急センター
Neurogastroenterol Motil (23:330-337, 2011)	Gastrointestinal dysmotility is associated with altered gut flora and septic mortality in patients with severe systemic inflammatory response syndrome: a preliminary study	清水健太郎 外	高度救命救急センター
Dig Dis Sci (56:1782-1788, 2011)	Patterns of Gram-Stained Fecal Flora as a Quick Diagnostic Marker in Patients with Severe SIRS	清水健太郎 外	高度救命救急センター
CRITICAL CARE (15:R123, 2011)	Treatment effects of recombinant human soluble thrombomodulin in patients with severe sepsis: a historical control study	山川一馬 外	高度救命救急センター

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
BMC Research Note (4:134, 2011)	A novel technique of differential lung ventilation in the critical care setting	山川一馬 外	高度救命救急センター
Resuscitation (82:874-880, 2011)	Prognostic indicators and outcome prediction model for patients with return of spontaneous circulation from cardiopulmonary arrest: The Utstein Osaka Project	早川航一 外	高度救命救急センター
Int. J. Biomater. (2011, 2011)	Biodegradable polymers induce CD54 on THP-1 cells in skin sensitization test	土屋利江	未来医療センター
J. Biomater Sci. Polym. Ed. (2010, 21 (14))	Self-organization of the composition gradient structure in hyaluronic and poly(N-isopropylacrylamide) blend film.	土屋利江	未来医療センター
Yakugaku Zasshi (2010, 130 (10))	Microarray analysis of the effects of serum-free medium on gene expression changes in human mesenchymal stem cells during the in vitro culture.	土屋利江	未来医療センター
Artif. Organs (2010, 34 (9))	Japanese guidance for ventricular assist devices/total artificial hearts.	土屋利江	未来医療センター
Yakugaku Zasshi (2010, 130 (6))	Higher toxicity of dibutyltin and poly-L-lactide with a large amount of tin but lower toxicity of poly-L-lactide of synthetic artificial dura mater exhibited on murine astrocyte cell line.	土屋利江	未来医療センター
Yakugaku Zasshi (2010, 130 (5))	Comparative study of acid extraction tests of metal products containing lead.	土屋利江	未来医療センター
J. Nanosci. Nanotechnol. (2010, 10 (1))	Effects of intracerebral microinjection of hydroxylated-[60] fullerene on brain monoamine concentrations and locomotor behavior in rats.	土屋利江	未来医療センター
J. Biomed. Mater. Res. (2010, 94 (2))	Effects of surface chemistry prepared by self-assembled monolayers on osteoblast behavior.	土屋利江	未来医療センター
Yakugaku Zasshi (2010, 130 (2))	Determination of organotin compounds in water soluble paints and adhesives by GC-MS	土屋利江	未来医療センター
Journal of Gastroenterology 2010 Jul;45 (7) :713-20	Roles of double-balloon endoscopy in the diagnosis and treatment of Crohn's disease: a multicenter experience.	近藤純平	未来医療センター
YAKUGAKU ZASSHI (130, 1105-1111, 2010)	The impact of antimicrobial stewardship by infection control team in a Japanese teaching hospital.	Miyawaki, K. et al.	薬剤部
YAKUGAKU ZASSHI (130, 903-910, 2010)	Evaluation of environmental contaminations and occupational exposures involved in preparation of chemotherapeutic drugs.	Maeda, S. et al.	薬剤部
Blood Coagul Fibrinolysis. 2011, 22 (3) :185-9.	Development of a new modified Bethesda method for coagulation inhibitor: Osaka modified Bethesda method.	鳥田澄子	医療技術部

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
日本放射線技術学会誌 (2011. 2. 67巻2号)	320列CTを用いた冠動脈評価：造影剤低減の検討	圓尾浩康	医療技術部
感染症学雑誌 (平成22年11月20日第84巻6号)	新たなMRSAアウトブレイク予兆検知法	吉岡 範	医療技術部
日本検査血液学会雑誌、平成23年2月、12巻1号	t (4;17) (q11;q12) を有した小児急性前骨髄球性白血病の一症例	松林典子	医療技術部
臨床病理 (2010年9月、58巻9号)	慢性腎臓病患者における血清アポリポ蛋白B-48 (アポB-48) 濃度測定の意義	大久保 学	医療技術部
日本臨床微生物学会雑誌 (2011年21巻1号)	糞便中Clostridium difficile toxin Aおよびtoxin B同時検出試薬の有用性に関する比較検討	上田安希子	医療技術部
手術医学 2010;31 (2) :27-31	軟性内視鏡のより効果的な洗浄方法の構築について	伏見 了	医療技術部

小計

6

計

335

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

(注) 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

o/c

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 福澤 正洋		
管理担当者氏名	総務課長 曾谷 祐一 薬剤部長 黒川 信夫	医事課長 玉置 佳史 放射線部長 畑澤 順	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌 経過記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約、入院診療計画書及び同意書 処方せん 手術記録 看護記録 エックス線写真 各科診療日誌		総務課 医事課 薬剤部 手術部 看護部 放射線部 各診療科	カルテ等病歴資料は、1患者1カルテとし、コンピュータによる集中管理を行っている。 エックス線写真は、放射線部で集中保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	総務課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	総務課 薬剤部	
一規 項第 第一 号に 掲げ る第 一 項各 号及 び第 九 条の 二十 三第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	中央クオリティマネジメント部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	中央クオリティマネジメント部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	中央クオリティマネジメント部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	中央クオリティマネジメント部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	

(様式第12)

		保管場所	管理方法
病院及び諸 管理に 関する 諸記録 の 管理 運 送 記 録	規則第一条の十一 第一項各号及び第九 条の二十三第一項 第一号に掲げる体 制の確保の状況	院内感染対策のための 指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための 委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感 染対策のための研修の実 施状況	医事課 感染制御部
		感染症の発生状況の報 告その他の院内感染対策 の推進を目的とした改善 のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安 全な管理のための責任者 の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品 の安全使用のための研修 の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のた めの業務に関する手順書 の作成及び当該手順書に 基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のた めに必要となる情報の収 集その他の医薬品の安全 使用を目的とした改善の ための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用の ための責任者の配置状況	医療技術部
		従業者に対する医療機 器の安全使用のための研 修の実施状況	医療技術部
		医療機器の保守点検に 関する計画の策定及び保 守点検の実施状況	医療技術部
		医療機器の安全使用の ために必要となる情報の 収集その他の医療機器の 安全使用を目的とした改 善のための方策の実施状 況	医療技術部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	総務課長 曾谷 祐一
閲覧担当者氏名	総務課庶務係長 松本 安啓
閲覧の求めに応じる場所	総務課庶務係

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	84.8 %	算定期間	平成22年 4月 1日 ~ 平成23年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	20,745 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,358 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	602 人	
	D: 初診の患者の数	27,373 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者中心の医療の実践 2. 診療情報の共有 3. 医療安全に関する組織的取り組み 4. インシデントの報告 5. 機能する医療事故防止対策 6. 適切な医療事故への対応 7. 患者からの医療相談の実施 8. 医療安全情報の共有 9. 職員に対する教育研修 10. 医療安全文化の構築 11. 医療安全管理マニュアルの作成・更新 12. 医療安全管理に関する指針の公開 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 一 回
<p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統括医療安全管理委員会：本院における医療に係る安全管理について統括する 年11回 ・ リスクマネジメント委員会：医療事故の防止策を策定する 年 6回 ・ 医療クオリティ審議委員会：医療クオリティの向上を図る 年16回 ・ 医療事故対策委員会：医療事故が発生した場合の必要な対応を行う 年 0回 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 14 回
<p>研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療安全のための注意点 ②検査・処置時の鎮静 ③患者評価と情報伝達 ④小児BLS講習 ⑤安全な輸血の手順、CPRコールの運用について ⑥胸痛について ⑦小児の心肺蘇生 ⑧転倒転落時の頭部打撲の評価と注意点 ⑨医療安全におけるノンテクニカルスキルの重要性、e-ラーニングシステムについて ⑩小児病棟急変対応について ⑪成人用救急カート物品の点検 ⑫転倒転落時の頭部外傷に関する小児の評価と注意点 ⑬小児の呼吸不全の見方・考え方 ⑭医療安全における栄養管理の重要性 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療安全関係マニュアルの改訂と周知 ②転倒転落発生時の評価・コンサルテーションフローチャート及び放射線オーダーテンプレートの作成と周知 ③人工呼吸・挿管・抜管マニュアルの作成と周知 ④胃管マニュアルの作成と周知 ⑤穿刺（胸腔・腹腔・腰椎・骨髄）マニュアルの作成と周知 ⑥輸血シミュレーション及びマニュアルの作成と周知 ⑦CVC挿入用の超音波装置の院内貸出の開始 ⑧気道リスク評価チェックリストの作成と周知 	

(様式第13-2)

⑨休薬期間を要する薬剤のオーダリング上の警告機能の導入	
⑩急変対応物品の整備（病棟14階へのAED及び救急物品の設置、救急カート内のディスプレイ製品の院内標準化、及び病棟・外来へのポケットマスクの設置）	
⑪呼吸不全コンサルタントシステムの導入と周知	
⑫CPRコール事例の検証と周知	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (4 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (5 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
・ 所属職員： 専任(4)名 兼任(1)名	
・ 活動の主な内容： 1. インシデントの調査・分析・レポート管理 2. 医療事故防止方策の検討・実施・評価 3. リスクマネジャー会議の開催 4. 職員研修の企画・実施 5. 医療安全推進及び教育のための教材の開発・活用 6. 現場のリスクマネジャー支援 7. 他の委員会や部署、各職種間の連絡調整 8. リスクマネジメント委員会等の開催準備及び支援 9. 医療事故後の患者及び家族等への対応支援等	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染対策に関する基本的な考え方 ・ 院内感染対策に関する組織的な取り組み ・ 感染制御部の設置と目的 ・ 院内感染対策の対象者 ・ 院内感染対策の内容 	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 11 回
<p>活動の主な内容：</p> <p>感染対策委員会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 院内感染症の届出状況や抗菌薬の使用状況等の報告 ② 院内感染対策についての審議 (感染対策の重要事項に関すること、必要に応じての指導助言に関すること、院内感染防止対策の施設基準に関すること等) 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 13 回
<p>研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員対象：3回/年 手指衛生 インフルエンザ対策 院内感染対策のまとめの報告 ・ 対象別教育 新採用者（研修医、看護師）-院内感染対策の基本についての講義と演習 部署単位での勉強会-耐性菌対策、抗菌薬の適正使用など部署の問題に応じた内容 外部委託業者（清掃員、洗浄員、受付、メッセンジャーなど）インフルエンザ対策 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 耐性菌サーベイランス、デバイスサーベイランス等のサーベイランスデータを元に対象部署に介入を行い感染対策の改善を図っている MRSAサーベイランスを元にした介入 デバイスサーベイランス実施部署：ICU (BSI、UTI、VAP) 救命救急センター (BSI、UTI) 抗菌薬使用状況を薬剤部からのデータを元に、適正使用にむけての介入を行っている 8日以上継続使用には、抗菌薬継続使用届の提出を必要とする 対象患者のリストアップは専任薬剤師によって行う 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	定例 年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医薬品安全講習会6月：「麻薬の事件事例」・「病棟での注射剤混合の注意点」 医薬品安全講習会9月：「外来処方に関する疑義照会について」 医薬品安全講習会2月：「抗菌剤の血中濃度解析」・「科学的な抗菌薬使用法」 医薬品安全管理講習会9月：「医薬品安全管理体制について」、 定例外：集中治療部「薬剤ミキシング講習」その他「抗がん剤の運用について」 など</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 ((有) ・ 無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全業務手順書の策定・見直し 従業者に対する医薬品安全使用のための研修企画・実施 業務手順書に基づく業務実施の確認・記録 医薬品の安全使用のための情報収集その他改善方策</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>厚生労働省が発行している医療機器・医薬品安全情報、メーカーからの注意文書 の他、MRやインターネットにより積極的に安全情報の収集を図り、定期的及び必要に応じて 医薬品安全情報等を文書配布すると共に、院内ホームページに掲載している。また、 処方・注射オーダーリングシステム上に患者個人毎の副作用情報登録のシステム を構築し、定期的には集計して院内ホームページに掲載し全体で共有している。重要 な配布資料では、配布先の資料回覧状況を可視化し、薬剤部にも返送して状況把握 している。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 32 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>年2回の病院職員を対象に医療機器安全講習会を実施。新規購入機器の安全使用講習会は使用対象部署に対し代表者研修を行い、使用方法を習得した後各部署単位で使用方法の講習会を実施している。新人看護師に対する医療機器の安全使用講習会は、オリエンテーション時にカリキュラム内に輸液ポンプとシリンジポンプの使用法の講習会を実施。その他、本年度に入り既に14回の部署単位の研修を実施している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の作成 (有) ・ 無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>主に病棟・外来で汎用医療機器として中央管理する機器(19機種2046台)は、終了点検と定期点検を実施している。また、各部署が所有する生命維持装置(人工呼吸器・体外循環装置・除細動器・透析装置・保育器)は臨床工学技士が年間点検計画を作成し、実施もしくはメーカー点検に対するマネジメントを行っている。また、放射線部管理機器についても年間点検計画を作成、実施もしくはメーカー点検を行っている。すべて滞りなく実施を行い記録している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>中央クオリティマネジメント部や感染制御部等と情報の交換により具体的な対策を実施している。今年度は補助人工心臓を装着する患者に対しラウンドを行い、適正な稼働状況にあるか点検を行った。また各部署で使用する経腸栄養ポンプを新機種にし、適切な台数整備と標準化を行ない、点検の計画を策定し実施した。情報の収集については、大阪府健康医療部等の公的機関からの通知、業者からの通知等により行っており、関連事項についてはリスクマネージャーに通知している。</p>	